

第11回あきたの教師力高度化フォーラム

# 報 告 書

主催：秋田大学教職大学院

共催：秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター

令和3年2月19日（金）・20日（土）

秋田大学教育文化学部

「第11回あきたの教師力高度化フォーラム」の成果と今後  
—講演・シンポジウムについて—

秋田大学教職大学院教職実践専攻  
学校マネジメントコース長 原 義彦

講演では、志々田まなみ氏（国立教育政策研究所総括研究官）より、変わりゆく学校と地域の10年後を想像したとき、今こそ学校と地域が共通の目的を持って協働することの必要性について、調査研究の成果、政策動向、学校の教育実践を織り交ぜながら、わかりやすく、明快なお話をいただいた。

シンポジウムでは、井上昌幸氏（栃木県立足利工業高校教頭）と佐藤潔氏（秋田県能代市立二ツ井小学校長）からは、それぞれの学校での地域連携・協働の取り組みをお話いただくとともに、地域との連携・協働を成り立たせている要因や学校経営の立場から地域との連携・協働を推進するときの留意点などについて討議を行った。

参加者からは、地域とともにある学校の政策や今後との見通し、栃木県の地域連携担当教員の制度、具体的な地域連携・協働の活動のあり方など、これからの学校と地域の関係づくりを考える上でたくさんのヒントをいただけたといった感想が寄せられた。将来を見据えた学校と地域のあり方を考察する有意義な機会となった。



なお、この講演とシンポジウムでは学内に参加会場を設けるとともに、講演等の様子はインターネット通信アプリ Zoom を用いてリモート参加者への配信も行われた。ハイブリッド型での講演会等の実施は本大学院では初めての試みであった。特にトラブルはなく、計画通りに実施することができた。今回の成果と課題を検討し、今後も想定されるハイブリッド型による各種事業の実施に生かしていきたい。


## 第11回あきたの教師力高度化フォーラム

- ◆期日 令和3年2月19日(金)・20日(土)
- ◆会場 秋田大学教育文化学部3号館(60周年記念ホール、他)
- ◆対象 会場参加:秋田大学関係者及び招待者  
ZOOM参加:全国の教職員、研究者、教育委員会指導主事・研修員、教員志望学生等  
(ZOOM参加は2日目のシンポジウムのみとなります)
  
- ◆日程 <1日目:2月19日(金)>
  - 9:15 開場・受付
  - 9:45 開会行事
  - 10:00 秋田県総合教育センターとの連携による発表
    - ・教職発展演習発表(学部生)
    - ・センター研修員の研究発表
  - 12:45 中間発表会(学部卒院生1年、現職教員院生)
  - 15:15 研究成果発表会①(学部卒院生2年)  
<2日目:2月20日(土)>
    - 9:30 開場・受付
    - 10:00 研究成果発表会②(学校マネジメントコース現職教員院生)
    - 13:00 講話「地域とともにある21世紀型学校の創造」
      - <講師> 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部  
総括研究官 志々田 まなみ
    - 14:25 シンポジウム「地域とともにある21世紀型学校の創造」
      - <シンポジスト>
        - 栃木県立足利工業高等学校 教頭 井上 昌幸
        - 能代市立二ツ井小学校 校長 佐藤 潔
      - <コメンテーター>
        - 国立教育政策研究所 総括研究官 志々田 まなみ
      - <コーディネーター兼シンポジスト>
        - 秋田大学教職大学院 教授 原 義彦
  - 15:40 閉会行事

【主催】秋田大学教職大学院

【共催】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター

【後援】秋田県教育委員会／秋田市教育委員会



## 地域とともにある21世紀型学校の創造

志々田まなみ(国立教育政策研究所)

shishida@nier.go.jp

施策  
背景

現状

協働を目指して

### 参考資料・文献

文部科学省webページ「学校と地域でつくる学びの未来」<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

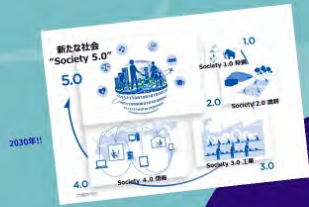
露口健司『ソーシャル・キャピタルと教育:「つながり」づくりにおける学校の役割』2016, ミネルヴァ書房

ポール・タフ『私たちは子どもに何ができるのか——非認知能力を育み、格差に挑む』2017, 英治出版

妹尾昌俊『「先生が忙しすぎる」をあきらめない—半径3mからの本気の学校改善』2017, 教育開発研究所

志水宏吉・若槻健『「つながり」を生かした学校づくり』2017, 東洋館出版

天笠茂『新教育課程を創る学校経営戦略 カリキュラム・マネジメントの理論と実践』2020, ぎょうせい



学びを変えたい

# Welcome Aboard!



平成27年12月

新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた  
学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推  
進方策について（答申）（中教審186号）

令和3年1月

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての  
子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協  
働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）

## 学校と地域でつくる学びの未来

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

# 学びを変えたい！

2030年までのラストスパート

持続可能な  
仕組づくり

## 学校教育 子供の学び

- 学習指導要領の改訂
- 学校運営協議会の設置
- 個別最適な指導



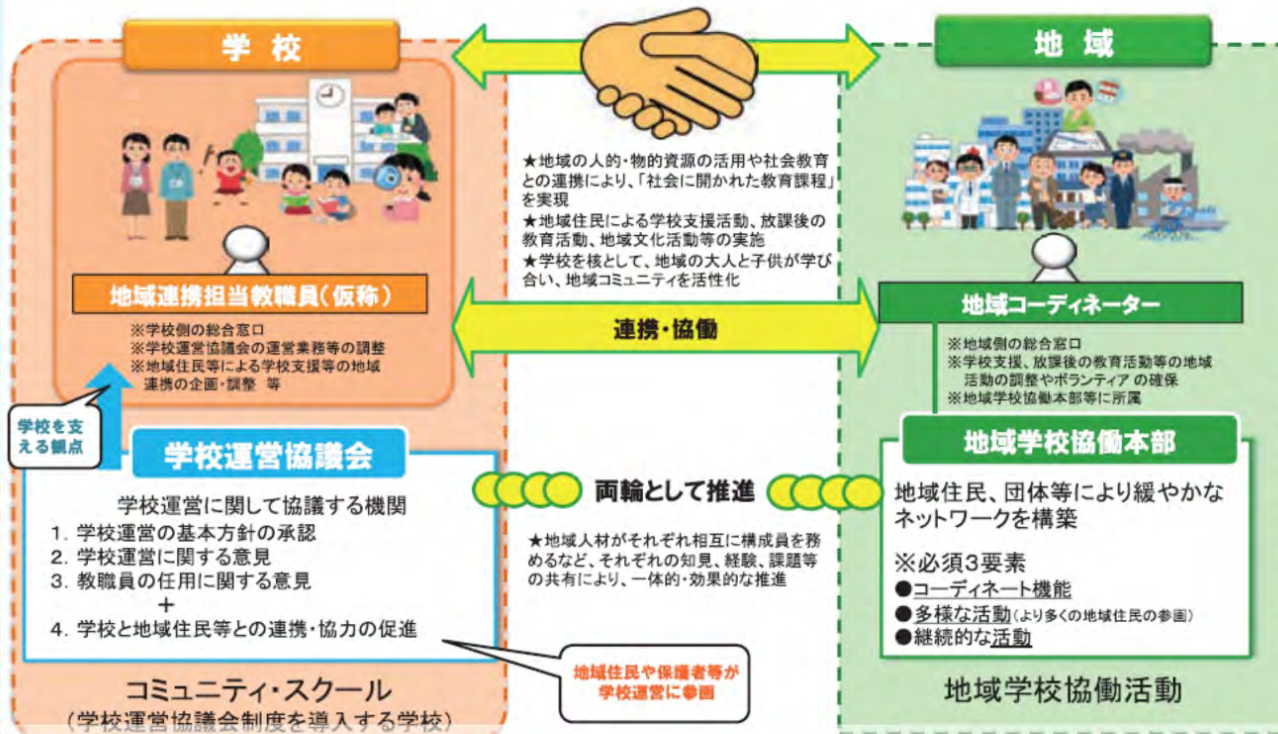
## 社会教育 大人の学び

- 地域課題の解決  
にむけた学習の推進
- 地域学校協働活動の  
推進体制の構築
- 地域教育力の向上  
—学校・家庭・地域の役割分担—

変化の激しい社会で活躍する力を  
「人とのつながり」の中で育む  
教育環境（学校・家庭・地域）  
の一体的整備

## 学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制（イメージ）

ーパートナーシップの構築による新しい時代の教育、地方創生の実現ー



「地域学校協働」は  
学校運営改革、授業改善  
を進めていく方法  
(ツール) であって  
目標ではない

- \*特色ある学校づくり
- : 小中一貫教育
  - : キャリア教育
  - : ふるさと教育
  - : 全教科学習の改善

\*個別最適な学びづくり

など

社会のニーズをくみ取り、魅力的な教育資源を取り入れることで、学校教育を充実させる学校づくりの仕組み

学校や子供に関わる活動に対して、地域全体で関心を高め、横のつながりで担い続けるための地域づくりの仕組み

学校運営協議  
会の設置状況

地域学校協働本  
部の設置状況

一体的推進の  
状況

地域コーデ  
ィネータの  
配置状況



# 地域とともにある学校づくりの今

(令和2年7月時点)



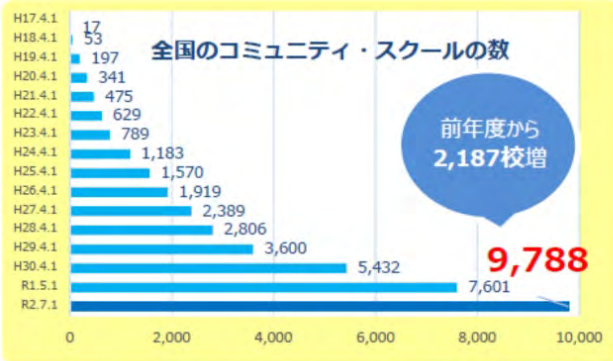
## コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入状況 -学校数-

学校運営協議会を設置している学校数

46都道府県内 9,788校 (令和2年7月1日現在)

(幼稚園237、小学校5,884、中学校2,721、義務教育学校76、高等学校668、中等教育学校3、特別支援学校199)

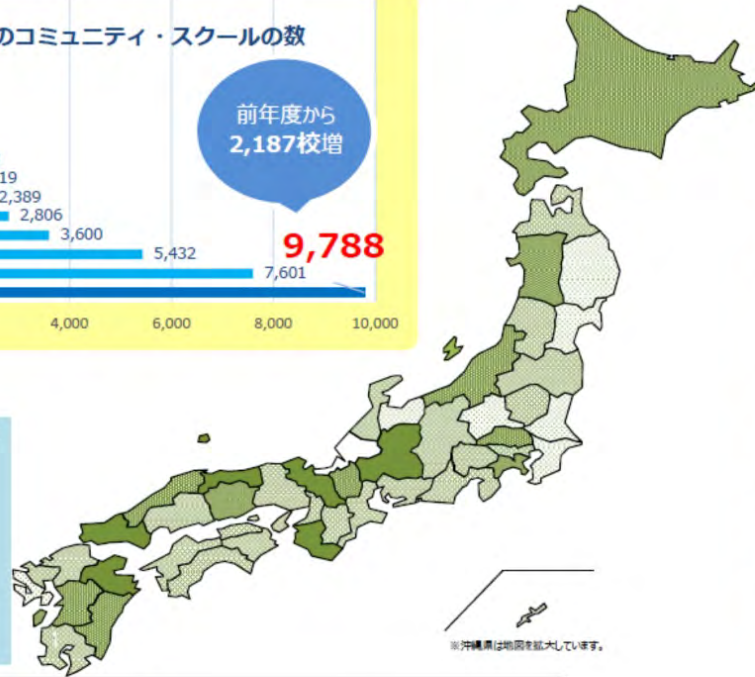
全国の学校のうち、27.2%がコミュニティ・スクールを導入



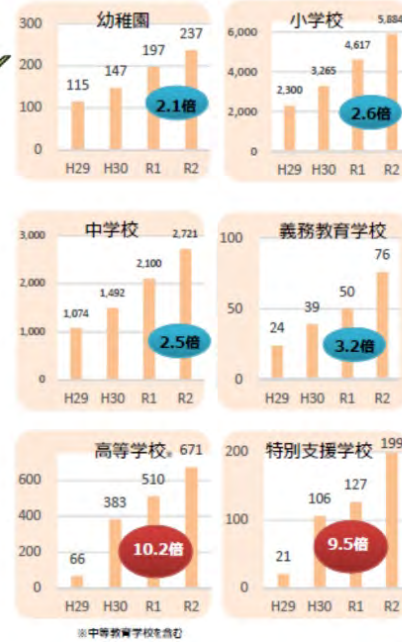
コミュニティ・スクールを導入している学校の割合

【設置率】※

- 50%以上 ... ●
- 30%以上 ... ●
- 10%以上 ... ●
- 10%未満 ... ○
- 設置なし ... ○



### 校種別設置状況



※母数は令和2年7月1日調査で各教育委員会から報告があった学校数。  
※ここでのコミュニティ・スクールは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に規定された学校運営協議会が置かれた学校を指す。

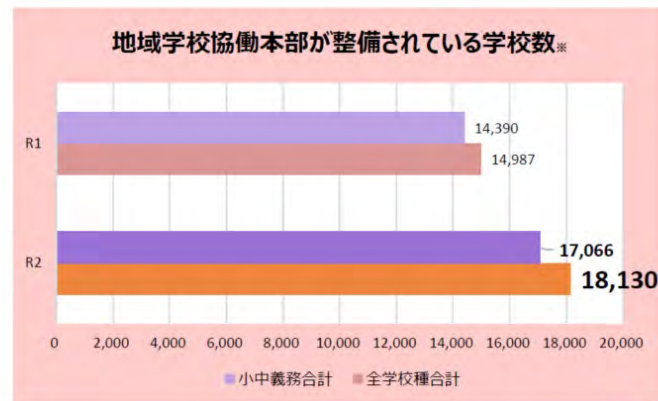
## 地域学校協働本部の整備状況 ー学校数ー

地域学校協働本部が整備されている公立学校数

46都道府県内 **18,130校** (令和2年7月1日時点 (年度内の予定を含む))

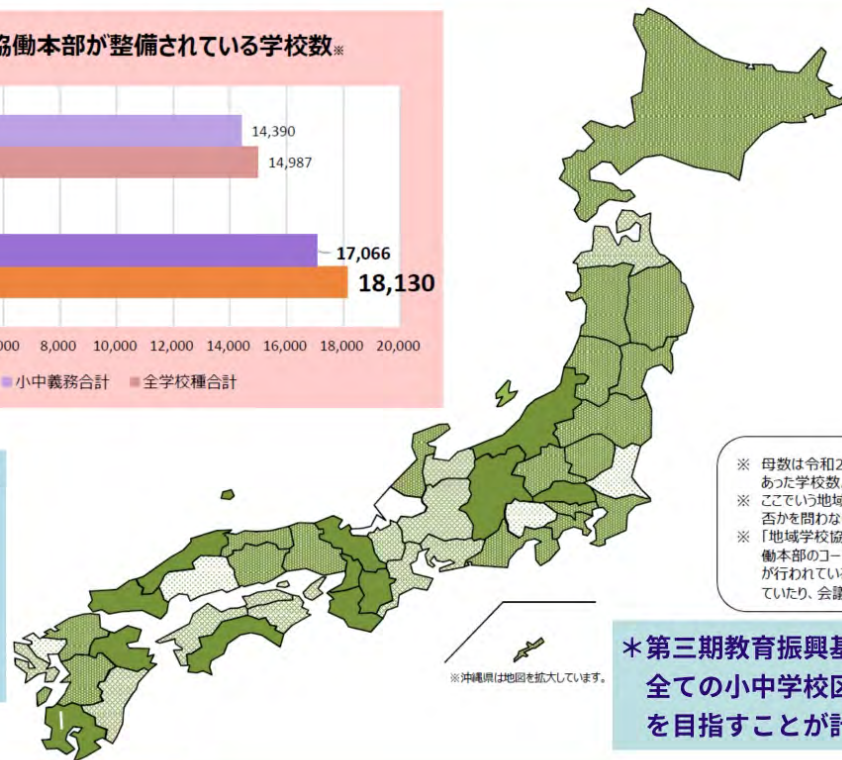
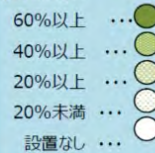
(幼稚園500、小学校11,777、中学校5,206、義務教育学校83、高等学校386、中等教育学校2、特別支援学校176)

全国の公立学校のうち、**50.3%**が地域学校協働本部にカバーされている



地域学校協働本部が整備されている学校の割合

【整備率】※

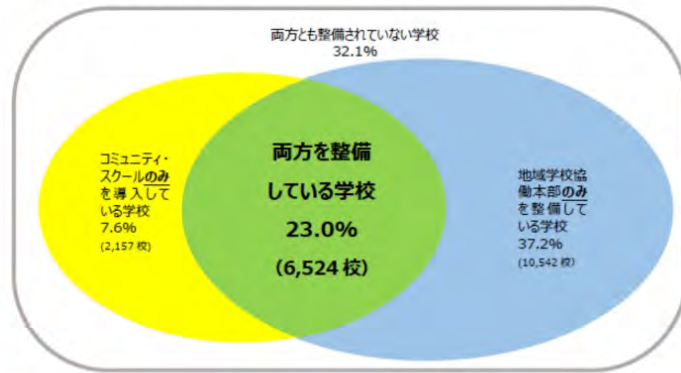


- ※ 母数は令和2年7月1日調査で各教育委員会から回答があった学校数。
- ※ ここでいう地域学校協働本部とは、国庫補助による活動か否かを問わない。
- ※ 「地域学校協働本部が整備されている」とは、地域学校協働本部のコーディネートのもとで様々な地域学校協働活動が行われている状態を言い、必ずしも学校ごとに組織化されていたり、会議体や事務局があるものではない。

**\*第三期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)で、全ての小中学校区において地域学校協働活動が推進されることを目指すことが計画されている。**

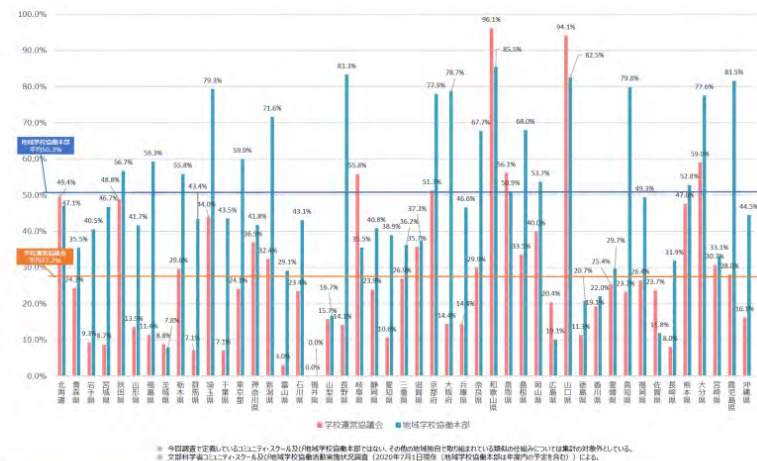
全国の公立小学校、中学校、義務教育学校においてコミュニティ・スクールと地域学校協働本部をともに整備している学校数

**6,524校 (23.0%)** (前年度から2,509校増加 (8.9ポイント増加))



コミュニティ・スクールの導入率と地域学校協働本部の整備率 (都道府県別・全学校種)

コミュニティ・スクールを導入している公立学校数 : 9,788校 (総校数 : 237, 小学校 : 5,884, 中学校 : 2,721, 義務教育学校 : 76, 高等学校 : 668, 中等教育学校 : 3, 特別支援学校 : 199)  
地域学校協働本部が整備されている公立学校数 : 18,130校 (総校数 : 500, 小学校 : 11,777, 中学校 : 5,206, 義務教育学校 : 63, 高等学校 : 386, 中等教育学校 : 2, 特別支援学校 : 176)



## 全国の地域学校協働活動推進員等 28,822人

＊教育委員会が社会教育法に基づき、地域学校協働活動推進員として委嘱をしている者は7,339（25.4%）

＊全国の地域学校協働活動推進員等のうち、学校運営協議会委員である者は4,955人(17.2%)

＊全国の公立学校設置者のうち、地域学校協働活動推進員等を配置している割合は、83.5%

【図表9】コーディネーターの属性（複数回答、上位6項目）



国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『地域学校協働のためのボランティア活動等の推進体制に関する調査研究報告書』（2018）

・地域学校協働活動推進員でも、学校との関係性が全くない地域もある（放課後子供教室等）

・地域学校協働活動推進員の配置と、CS設置への計画がない自治体は、地域学校協働活動推進事業（補助事業）を受けられない。  
→「放課後子供教室を続けるためにCSを導入する!？」という自治体も・・・



# Collaboration

悩み

協働的な学び

これからの  
学校マネジメント  
をどう考える？

- ①地域との交流，連携は十分やっており，地域からクレームはありません。なのに，なぜ学校運営や教育活動について，これ以上地域住民を巻き込む必要があるのでしょうか。学校や教育についてよく知らない，専門的知識を持たない地域住民が会議に参加しても非効率です。教職員の働き方改革に逆行していないのでしょうか。
- ②様々なところで，学校と地域をつなぐコーディネーターの配置が求められており，需要が増えています。しかし，現状では個人の力量にお任せする部分が多く，そうした高い力量を持った人材は見当たりません。どのように見つければいいのですか。また，例えば教員のように，コーディネーターについても専門資格のような制度や養成課程が整備されないのでしょうか。
- ③高校や特別支援学校等、生徒の居住地が様々な場合、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動で地域の子どもを育てるという意味付けをどのように行っていけばよいのでしょうか。  
「社会に開かれた教育課程」の考えからすれば、学校が所在する地域との連携が主となるのでしょうか。

## 協働的な学び

学習指導要領解説第7章第3節の2 総合的な学習の時間

「他者と協働し主体的に取り組む学習活動にすること」

① 多様な情報を活用して協働的に学ぶ

多様で多量な情報を収集することは、その後の情報の整理や分析を質的に高める。

② 異なる視点から考え協働的に学ぶ

異なる視点や考えを基にして検討していくことで、事象への認識が深まり、さらなる探究的な学習へとつながり、互いのよさや可能性を尊重し合う。

③ 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

相手意識や仲間意識を基に共に学び行動する中で、個の学習の質とともに集団の学習の質を高め、社会参画の意識も育成する。

④ 主体的かつ協働的に学ぶ

主体的に学ぶことと協働的に学ぶことをバランスよく行い、そのよさを実感することで、探究的な学習が持続し発展するとともに、自分の考えに対する自信と確信をもつ。

(平成29年小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編)

## 協働とは

- ① **立場の異なる他者**どうしが、**共通の目的**に向かって協力し合う活動。
- ② 相互に**お互いの不足を補い合い**、ともに協力して**課題解決**に向けた具体的な取り組みを起こす活動。
- ③ 互いの**充実・改善**へとつながる、**持続可能な好循環**を意識した活動。



- ・ 学校と地域との立場の違いを理解し、責任を分担し合う  
＝一極集中型ではないリーダーシップ
- ・ 互いに共通する「課題・目的」を発見し、具体的な行動を实践  
＝本音・弱音を口にできる関係性
- ・ 眼前の課題解決の活動を通して、長期的な「体質改善」を模索  
＝ともに汗をかく時間の長さ  
比例して信頼は成熟する



何を学ぶか？  
ではなく、  
どう学びを進めるか？  
をマネジメント



## 現状分析・情報共有

より良い社会(地域・学校)とは何か？何が課題なのか？

## 課題・問いの発見

それをつくり、支えていくためにどんな取組・活動が必要か？

## 解決策の提案

それを実行し続けるために、どんな役割分担・つながりが必要か？

## 実践・振り返り

変化の激しい社会を生き抜く力

## 「社会に開かれた教育課程」

中央教育審議会答申初等中等教育分科会  
教育課程企画特別部会論点整理より

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり自らの人生を切り拓(ひら)いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること

子供と大人，教員と地域住民，学校教育と社会教育・・・etc.とが協働して「より良い社会(地域・学校)づくり」に取り組む学習  
(社会教育法では「**地域学校協働活動**」と定義)

第11回あきたの教師力高度化フォーラム

令和3年2月20日(土)

地域とともにある21世紀型学校の創造

# 地域と学校の連携・協働活動の推進 ～栃木県の取組から～

栃木県立足利工業高等学校

教頭 井上昌幸

# I. 地域連携教員制度（栃木県） の背景

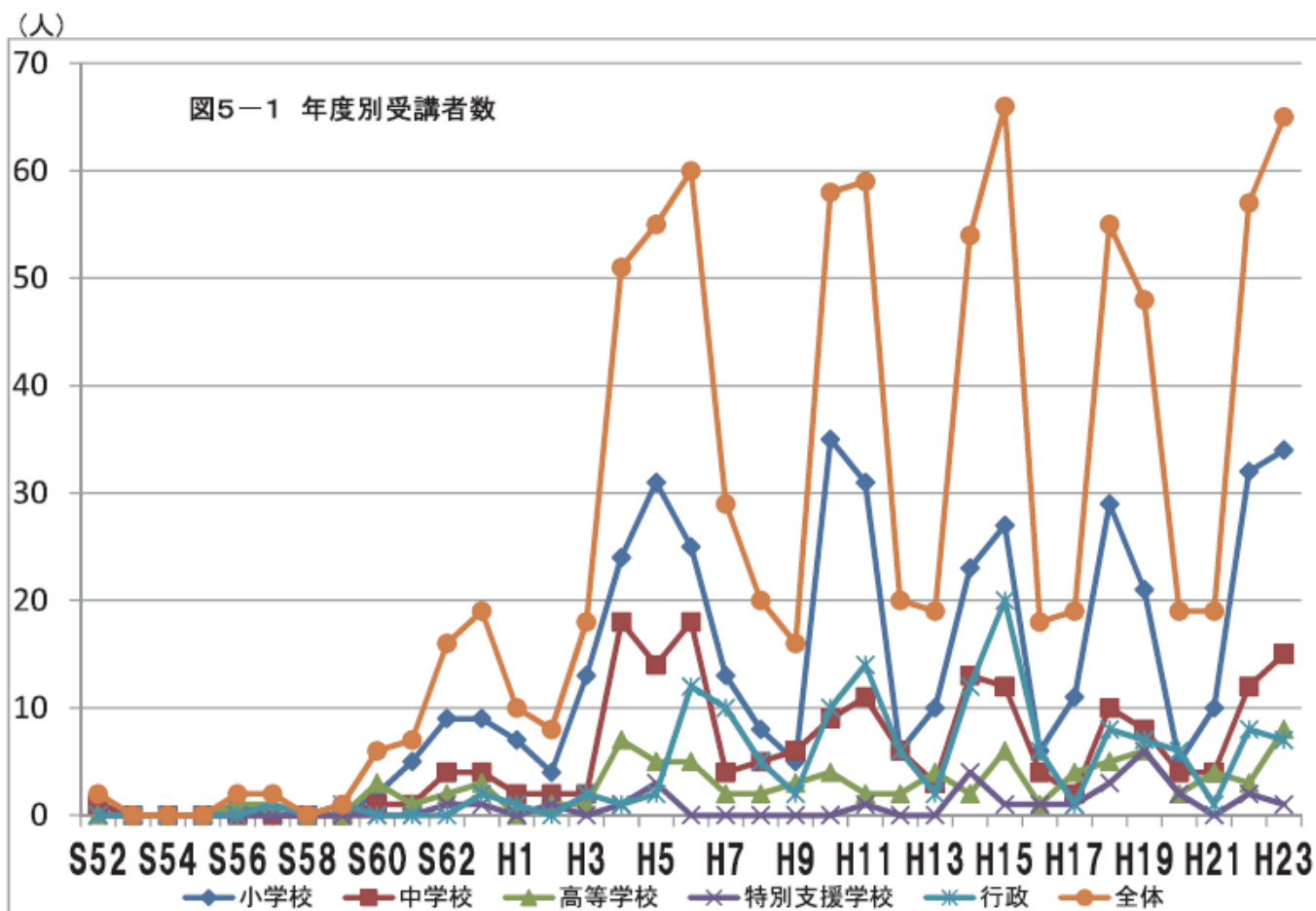
# 地域連携教員制度の背景

(1) 社会教育主事有資格教員の全校配置計画

(2) 学校と地域の連携に関する取組

(3) 市町村支援体制

# (1)社会教育主事有資格教員の全校配置計画



H26 84名  
 H27 78名  
 H28 21名  
 H29 19名  
 H30  
 を継続派遣

社会教育主事講習への派遣

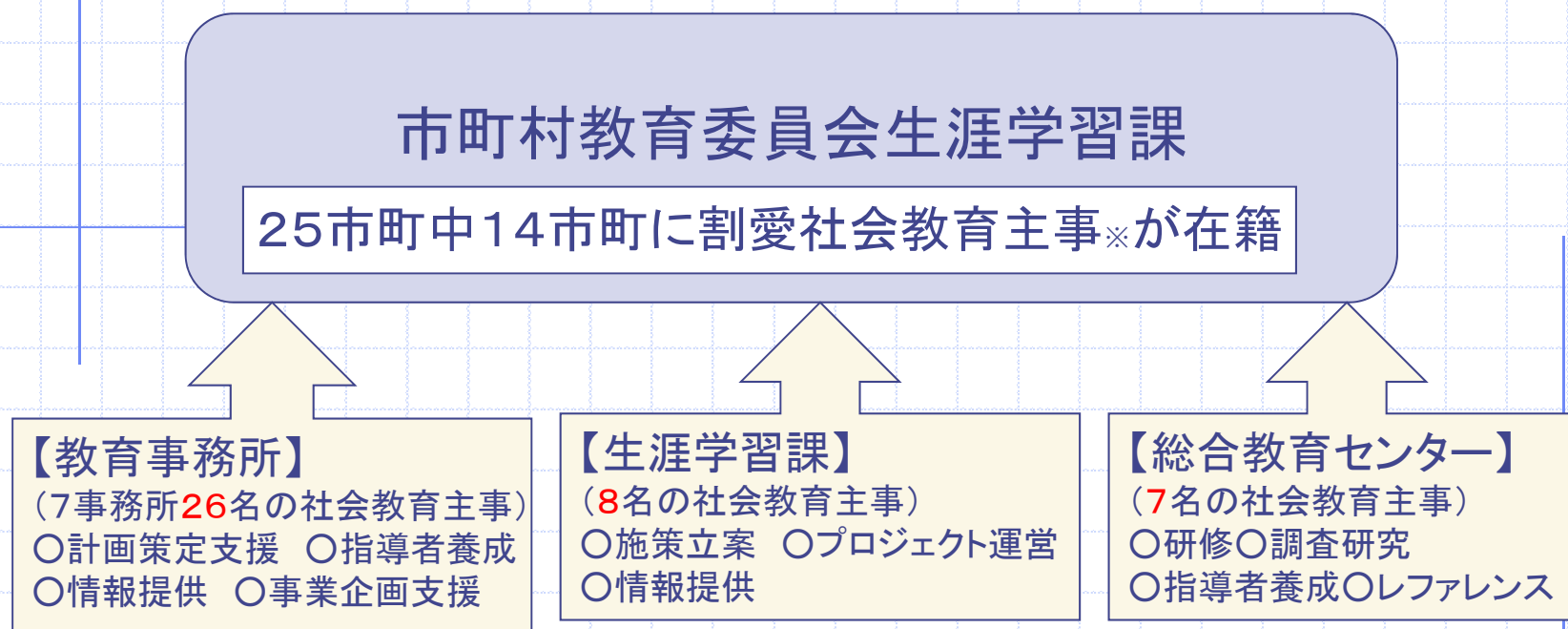
## (2)学校と地域の連携に関する取組

学社連携・融合の取組(平成8年)

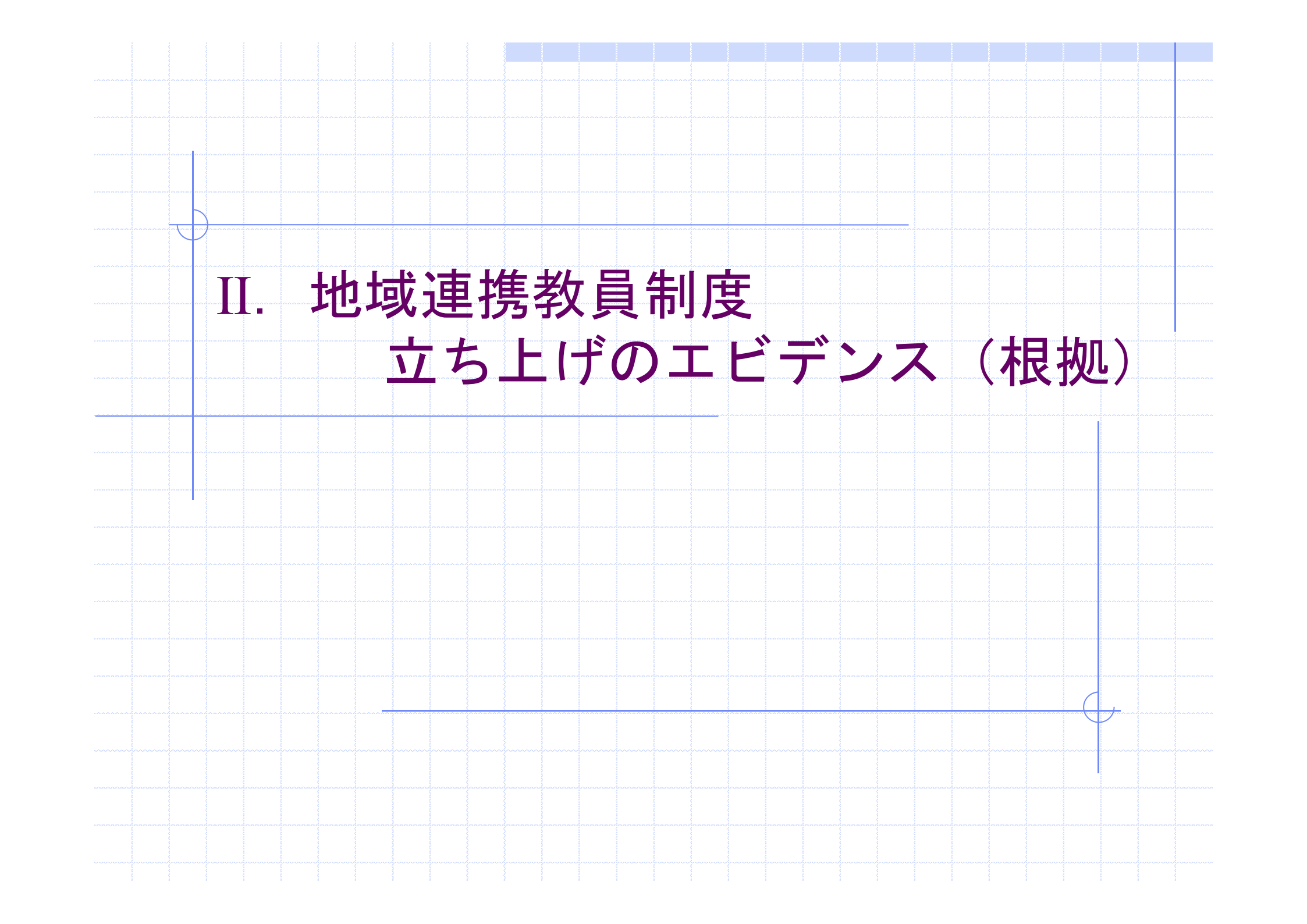
ふれあい学習の推進(平成13年～)

- ➡ 平成13年度に派遣社会教育主事制度を廃止。派遣社会教育主事を教育事務所に引き上げ、新たに「ふれあい学習課」を設置。
- ➡ 子どもたちを地域で育てる機運を醸成。地域のキーマンづくり、組織づくりを推進。

## (3)市町村支援体制



※市町村が学校教員を社会教育主事として採用する。(市町村予算)



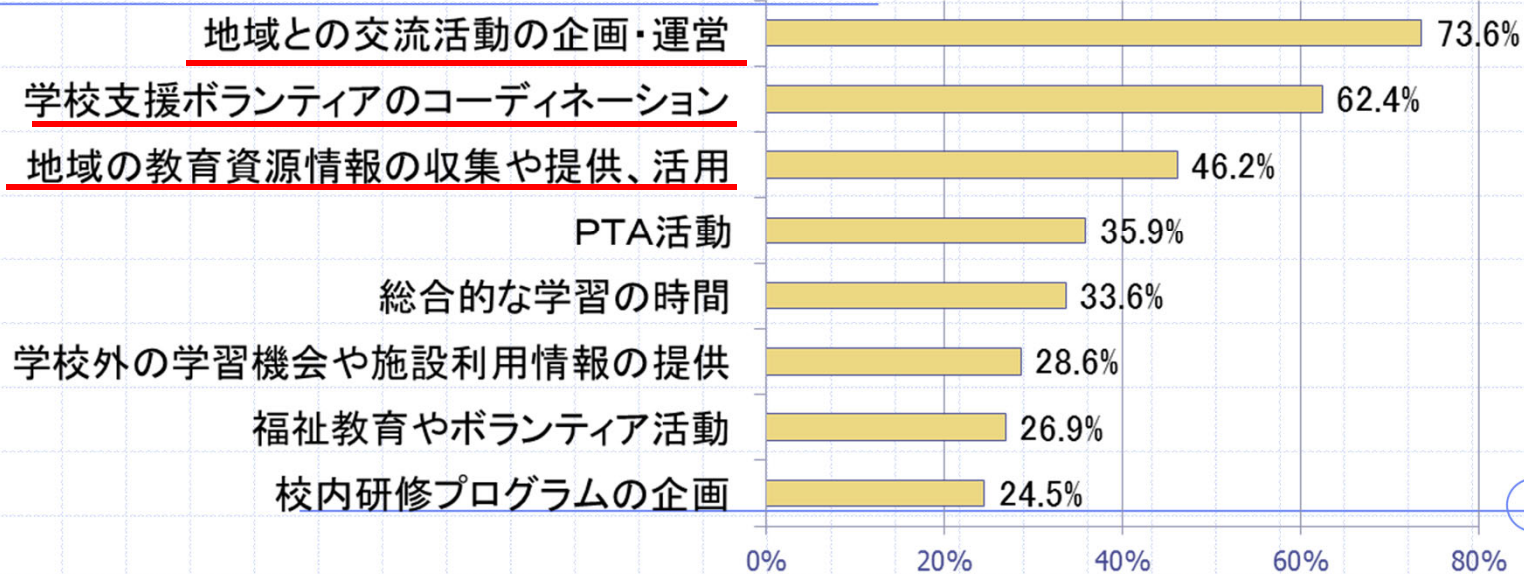
## II. 地域連携教員制度 立ち上げのエビデンス（根拠）



# (1)有資格教員の思い

## 【有資格教員の認識】

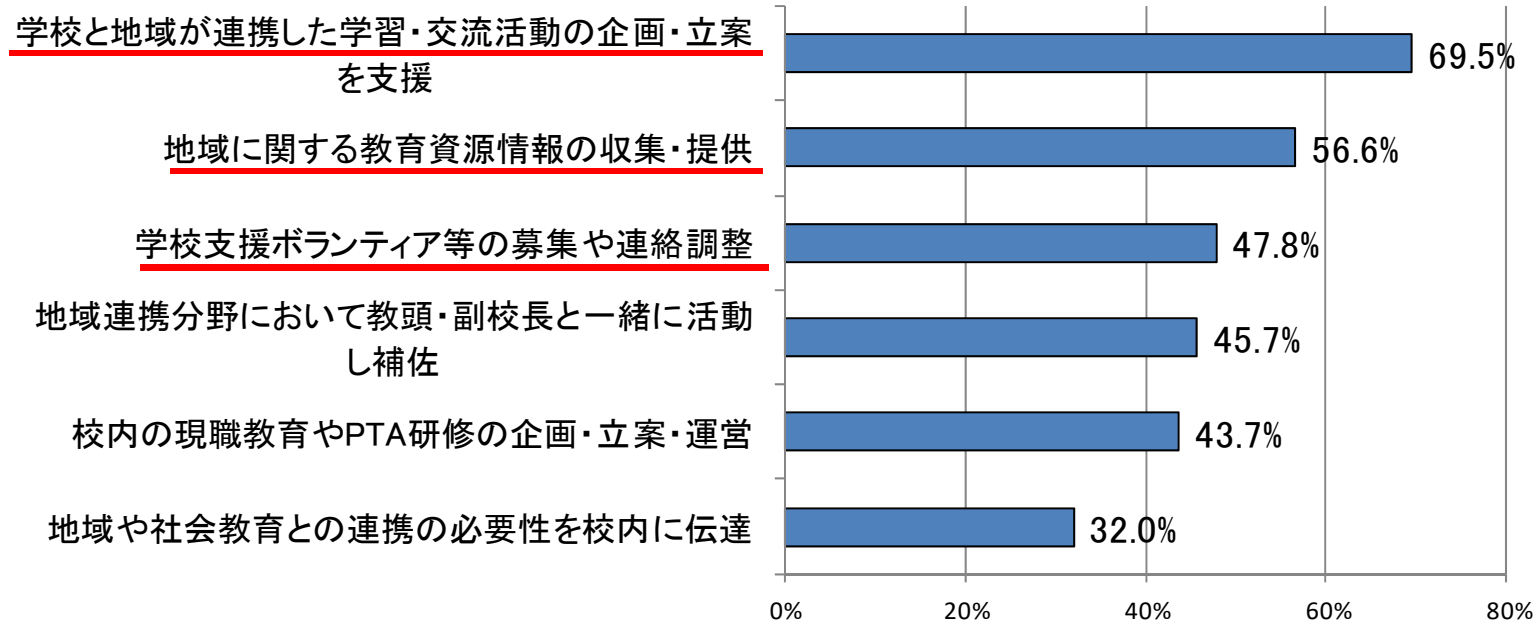
学校で有資格者としての知識や経験が生かせる活動は何か  
(複数回答)上位の回答を表示 (n=886)



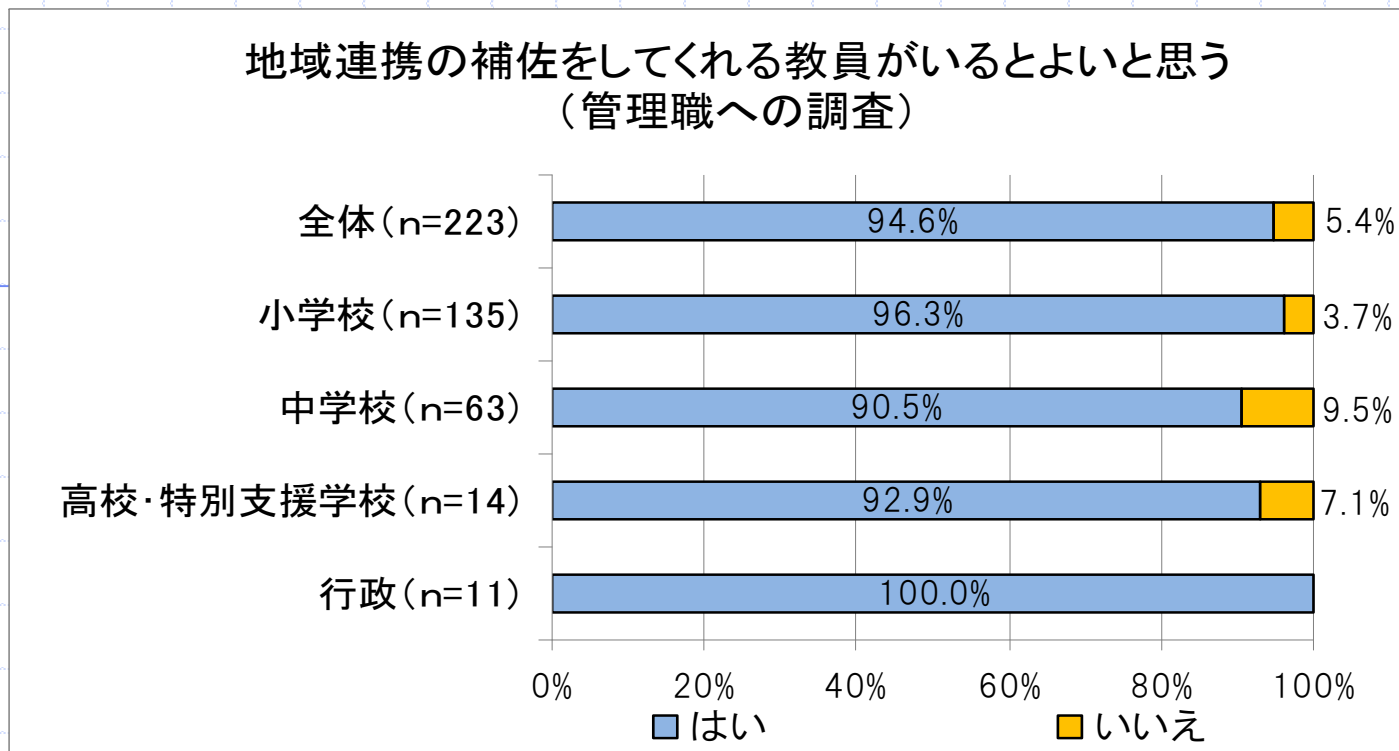
## (2) 管理職の思い

### 【管理職の認識】

社会教育主事有資格者が果たす役割についての期待  
(管理職への調査) 複数回答(n=886)

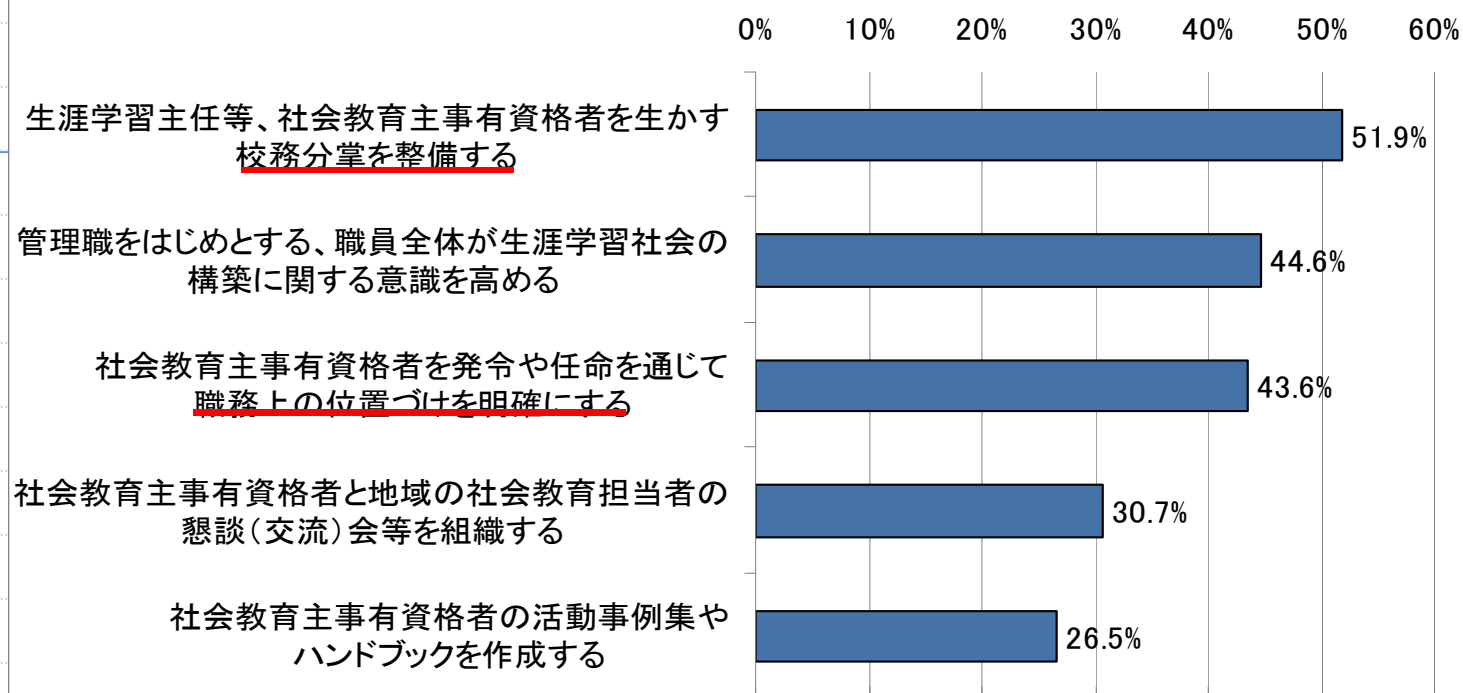


### (3) 管理職の状況



## (4)有資格教員の願い

有資格者が学校で活躍するために、整備すべき条件(3つまで選択)  
(n=886)



## ○有資格者と管理職の思い

管理職

して欲しい！

社教主事有資格者

やりたい！

一致

「事業実施の必要性」  
「事業実施に無理がない」  
こと等のエビデンス！！

# 下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目6番11号  
〒320-8686

下野新聞社

電話 028-626-1111

郵便振替口座 00130-1-623433

©1986NH2014

## 「地域連携教員」を配置

### 社教主事資格者ら活用

#### 4月から公立校に県教委

地域の資源を活用した教育活動の充実を図るため、県教委は15日まで、4月から県内すべての県立学校、市町立小中学校に「地域連携教員」を配置する方針を決めた。学校と地域の連携ノウハウを身に付けた、社会教育主事の資格を持つ教員を主に活用し、各校が1人を地域連携教員に指名する。中心となる教員を明確化することで、連携を強化する。県教委によると、こうした形で地域連携担当を配置するのは、全国的にも珍しい取り組みだという。

(横松徹史)

ら、社会教育主事の資格を持つ教員の養成に力を入れており、毎年資格取得のための講習に教員を派遣して

#### 地域との窓口にも

県教委によると、地域連携教員は学校全体の年間計画を作成するなど、学校と地域が連携した取り組みの総合調整を行うほか、情報

ボランティア活動などこれまででも各校が地域と連携した取り組みを実施していたが、県教委はより地域の特性を生かした教育活動の充実を図るため「地域連携教員」の配置を決めた。

県教委は1986年か

読み聞かせや職場見学、

収集や発信など地域との連絡窓口になる。また取り組みの企画や運営も行う活動の充実を図る。

### III. 地域連携教員制度（栃木県）

# (1) 地域連携教員の役割

地域連携教員の設置

平成26年度からスタート



栃木県内のすべての公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・義務教育学校に設置されています。



## 設置の目的

学校と地域が連携した教育活動を生涯学習の視点から効果的・効率的に展開するため



## 生涯学習の視点

子どもたちが学校だけでなく、将来にわたって学び続けることができる



生きる力を身につける



効果的・効率的

地域連携教員がいることで

組織的、計画的、継続的に取り  
組める。



地域連携活動がスムーズに  
展開される。



# 地域連携教員の役割

(1) 学校と地域が連携した取組の総合調整に関すること

- ・地域連携に関する計画の作成及び見直し
- ・地域連携に関する校内研修の企画・運営 等

(2) 学校と地域が連携した取組の連絡調整や情報収集に関すること

- ・地域連携に関する情報収集・発信
- ・地域連携に関する活動の連絡調整 等

(3) 学校と地域が連携した取組の充実に関すること

- ・地域連携に関する活動の実践
- ・地域連携に関する活動への支援
- ・計画や活動についての評価 等

## プランナー（企画者）

計画作成・校内研修企画

## コーディネーター（調整者）

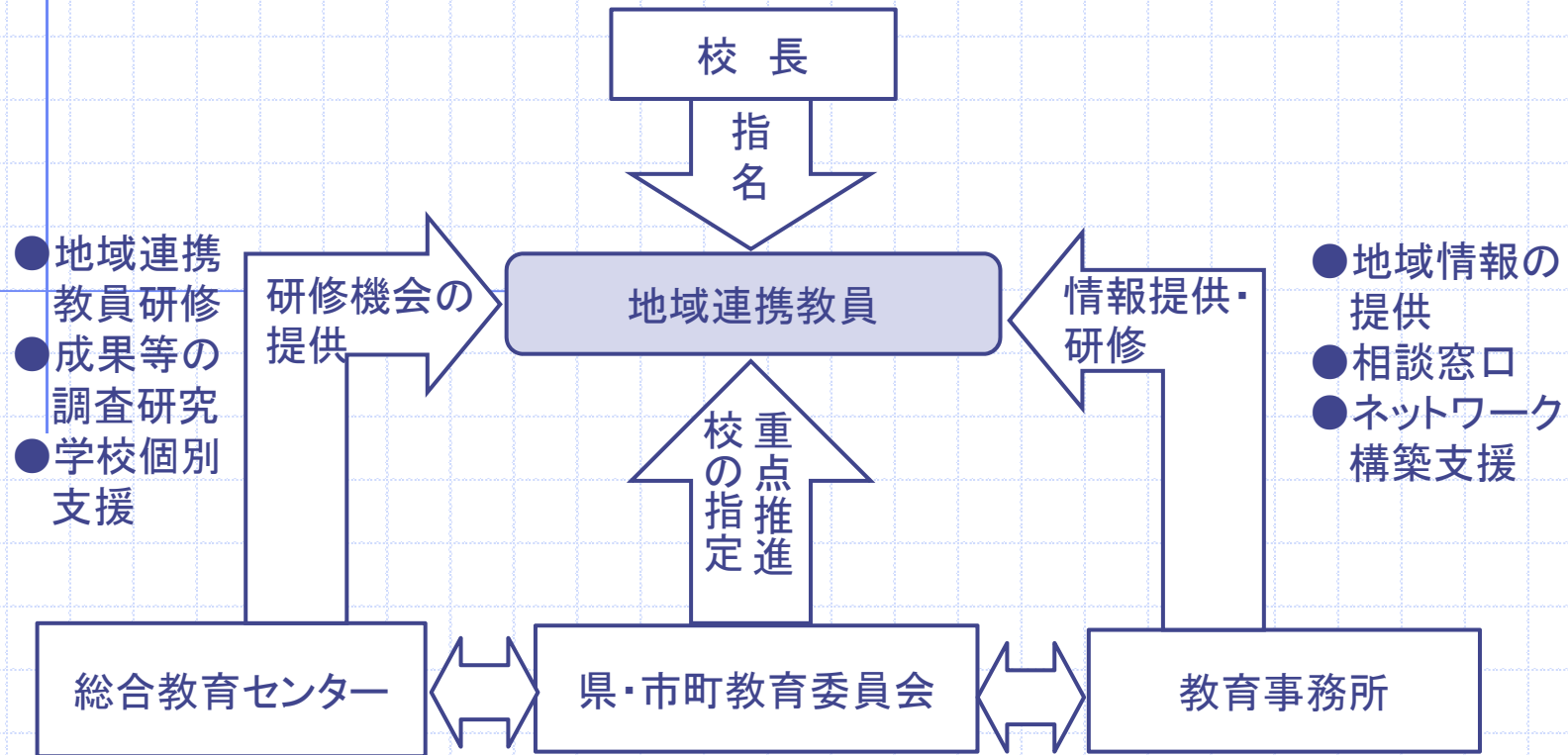
外部との窓口・情報収集・発信

## アドバイザー（助言者）

活動充実のための助言・計画や活動の評価



## (2) 地域連携教員の支援体制





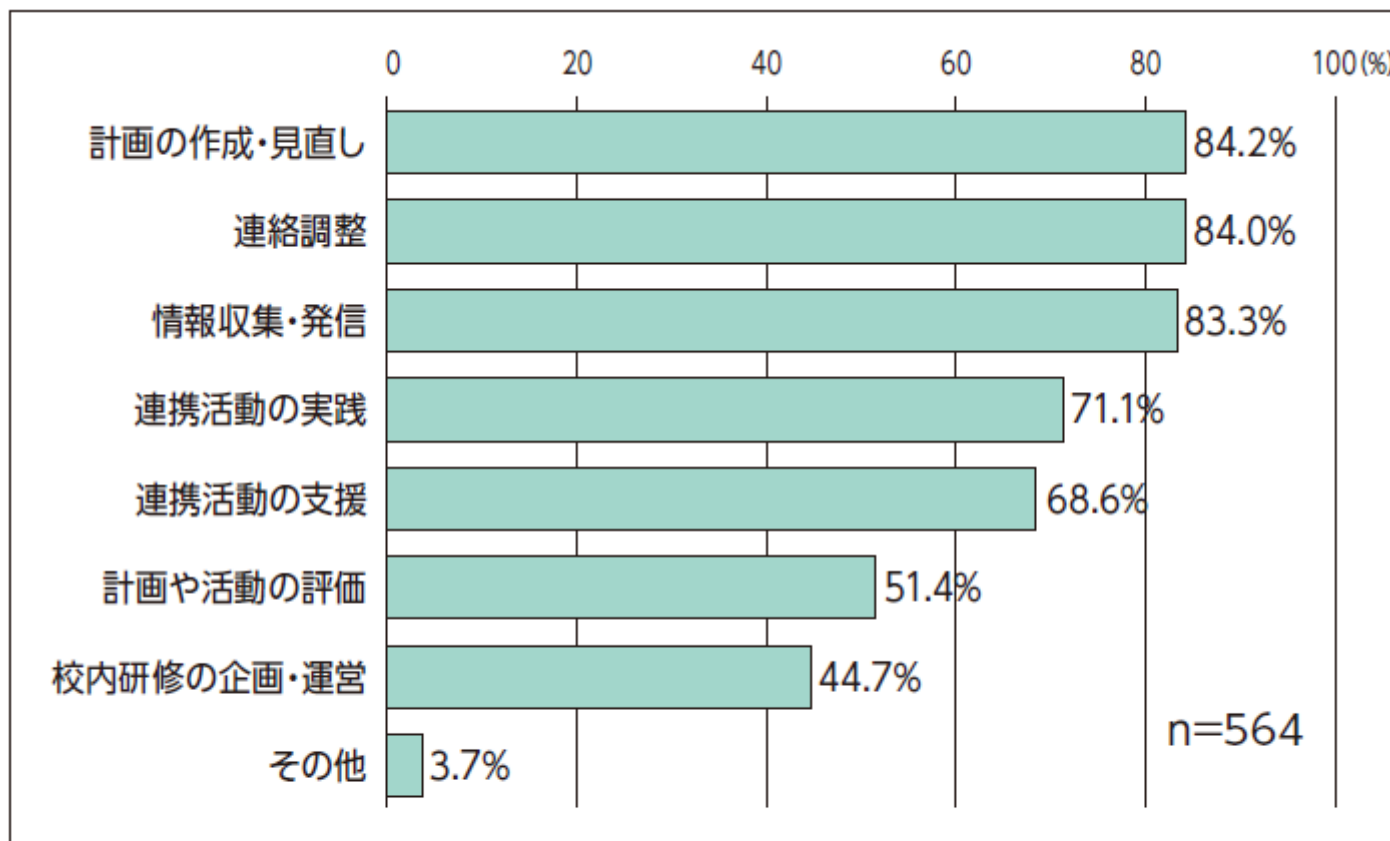
## IV. 地域連携教員の現状

# (1) 指名の状況

校種	校数 (校)	地域連携教員の職名別人数 (下段は社会教育主事有資格者数)					有資格者 の割合
		教諭	主幹教諭	教頭	その他	小計 (人)	
市町立小学校	366	250	8	108	0	366	43.2%
	(有)	135	3	20	0	158	
市町立中学校 (義務教育学校を含む)	154	119	2	34	0	155	49.0%
	(有)	66	2	8	0	76	
県立校	76	78	4	2	4	88	43.2%
	(有)	37	0	0	1	38	
県立高等学校 (全日・定時・通信制、付属中)	61	61	3	1	4	69	39.1%
	(有)	26	0	0	1	27	
(県立付属中学校)	(3)	2	0	1	0	3	33.3%
	(有)	1	0	0	0	1	
県立特別支援学校 (分校は任意)	15	15	1	0	0	16	62.5%
	(有)	10	0	0	0	10	
合 計	596	447	14	144	4	609	44.7%
	(有)	238	5	28	1	272	
職名の割合 (n=609)		73.4%	2.3%	23.6%	0.7%		
有資格者の割合 (n=各職名の教員数)		53.2%	35.7%	19.4%	25.0%	44.7%	



## (2) 担っている業務

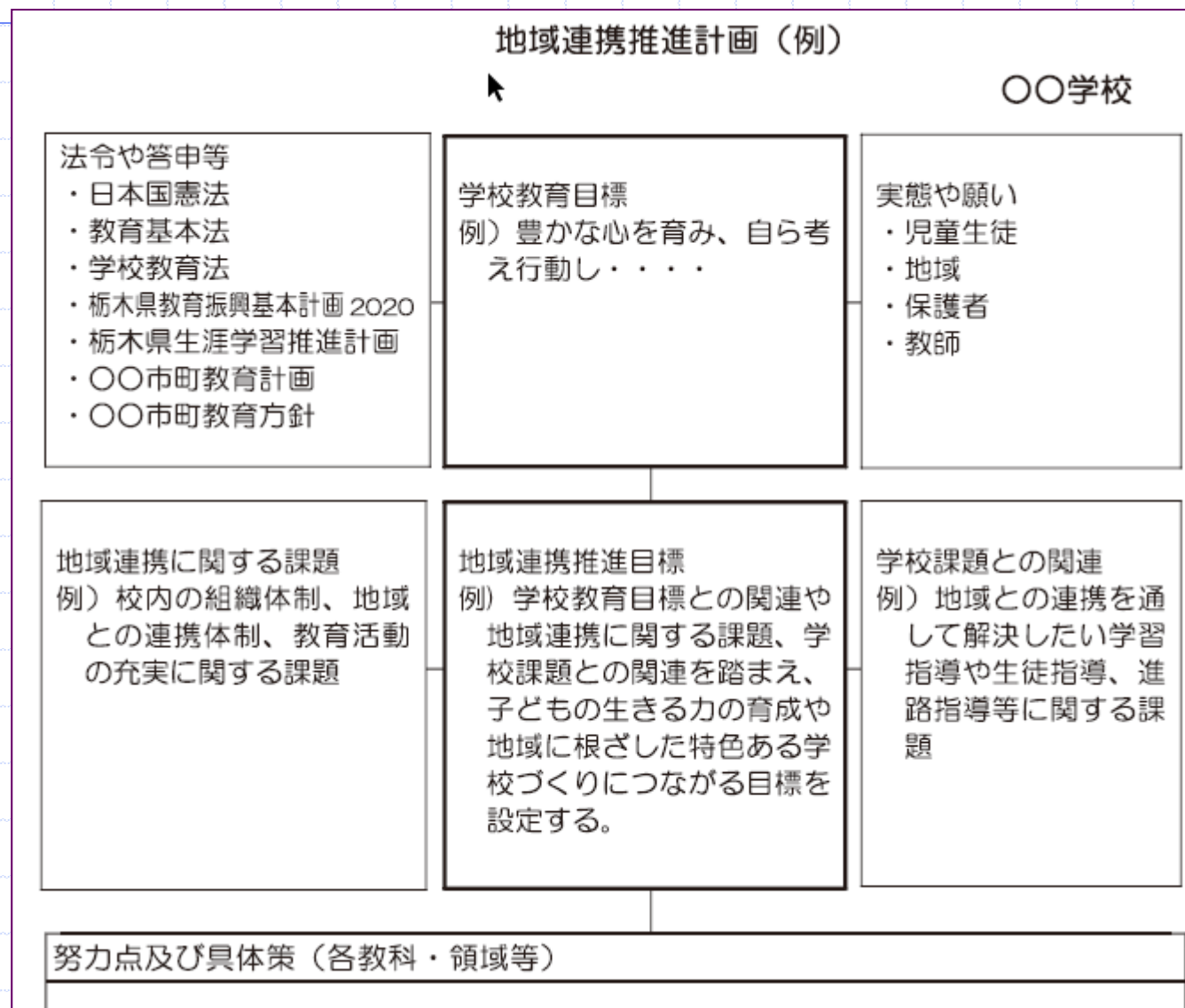


**地域連携教員として担っている業務（複数回答）**

栃木県総合教育センター調査（平成 28 年）

# 【総合調整】

## ①地域連携計画の作成



# 【総合調整】

## ②地域連携に関する校内研修

### ○地域連携の経緯や意義について

法令や答申等の流れの確認、先進事例の紹介等【外部の専門職員等による講話】

### ○連携活動の体制づくりについて

地域連携についての共通理解が必要な事項（ボランティア受入れの流れ、情報発信の方法等）の確認等【担当や関係職員による説明・実習】

### ○地域連携に関する活動づくりについて

教科・領域等での連携活動の検討、地域理解の促進、自校の連携活動の効果や課題の確認、活動の見直し等

【地域情報の収集、地域理解の促進のためのフィールドワーク】

【地域連携教員がファシリテーターとなり地域住民を交えたワークショップ】

# 【総合調整】

## ②地域連携に関する校内研修

内 容	概 要
1 はじめに アイスブレイク 【5分】	「餃子じゃんけん」 緊張感をなくし、安心して発言できる雰囲気作りをする。
2 ワーク 1 グループ協議 【15分】	「本音で語り合おう！地域連携」 グループで話し合い、全体で意見を共有。 教職員・・・「苦勞したこと」「失敗したこと」「こんなことが面倒だ」「こうだったら楽なのに」と思うこと 保護者・地域住民・・・「学校のこんなことが分からない」「学校がこうしたらもっと協力できるのに」と思うこと
3 ワーク 2 講 話 【20分】	「それでも、なぜ、地域連携が必要なのか？」 教育事務所社会教育主事からの講話を聞く。 地域連携の必要性や効果、県内の地域連携に関する事例（ワーク 1 で挙げられた課題を解決するような）等の紹介
4 ワーク 3 グループ協議 【25分】	「新たな視点で、地域と連携できそうなことは？」 グループで話し合い、全体で意見を共有する。 講話を聞いて感じたことをもとに、さらなる地域連携の充実に向けて、地域と連携できそうなことについて、グループ内で意見を出し合い、全体で意見を共有する。
5 おわりに 【10分】	「ふりかえり」 今後どんなことに取り組んでいきたいかを各自振り返り、グループ内で確認し合う。

# 【総合調整】

## ②地域連携に関する校内研修

「地域連携推進により期待される効果」一覧（「活用する力」を高めるための「発達課題」の解決と目指したい児童像）

	具体的な能力や態度	活動場面・単元等（活動内容）	目指したい児童像 ※は応用的な事柄（ ）は評価方法（低）～（高）は学年ブロックを示す。
自己理解	自分には、どのような特徴や興味・関心があるか、自分はどのような環境に置かれているか、自分は将来に対してどのような夢や希望を持っているかなどについての客観的、具体的な認識	2年生 生活科「レッゴー町たんけん」 3年生 総合「市貝町じまん」 4年生 社会科「火事からくらしを守る」 4年生 社会科「事件や事故からくらしを守る」 4年生 社会科「特色ある地域とくらし」 5年生 家庭科「はじめてのソーイング」 5年生 総合「わくわくミシン」	(低) ・働く喜びや仕事の必要性などに気付くことができる。 (中) ・地域における警察や消防の役割を知り、防犯や防災についての意識を高め、学校生活でそれを生かすとともに自分の役割について考えることができる。 (高) ・家庭科における製作活動を通して、努力ややり遂げた達成感などを体験し、他の活動に生かすことができる。
他者理解	相手の性格やものの考え方及び価値観、能力、興味・関心、行動観察材についての理解	2年生 生活科「レッゴー町たんけん」 3年生 総合「市貝町じまん」 4年生 社会科「火事からくらしを守る」 4年生 社会科「事件や事故からくらしを守る」 4年生 社会科「特色ある地域とくらし」 5年生 家庭科「はじめてのソーイング」 5年生 総合「わくわくミシン」 5年生 総合「今、考えよう わたしたちの食」 6年生 家庭科「生活を楽しくしよう ソーイング」	(低) ・働く喜びや仕事の必要性などに気付くことができる。 (中) ・地域における警察や消防の役割を知り、防犯や防災について自分の役割について考えることができる。 (高) ・家庭科における製作活動を通して、努力ややり遂げた達成感などを体験し、他の活動に生かすことができる。
共感性	相手の体験及び感情的状態、考えなどを、自己体験と同じように感じたり理解したりする資質や能力	1年生 生活科「むかしからのあそびをしよう」 2年生 生活科「音の遊びを楽しもう」 2年生 生活科「レッゴー町たんけん」 3年生 社会科「古い道具と音のくらし」 3年生 総合「市貝町じまん」 4年生 社会科「特色ある地域とくらし」 5年生 総合「今、考えよう わたしたちの食」 6年生 社会科「長く続いた戦争と人々のくらし」	(低) ・説明をしてくれる人の話を最後までしっかりと聞き、感想を自分の言葉で表現する。 (中) ・地域の特色や地域を支えてきた人々の気持ちを知り、感想を自分の言葉で表現する。 (高) ・食の大切さを知り、それを支える人々の苦勞について感想を自分の言葉で表現する。

# 【連絡調整】

## ①情報収集・発信

《 校内のニーズ調査用紙（例） 》

### 連携活動に関する校内のニーズ調査について

今年度の授業や学校行事、校内の環境整備等の中で、学校支援ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して学年主任まで提出してください。（提出期限〇月〇日（〇曜日））

【第〇学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 （依頼内容・時間数）	必要な人材や施設・団体等
4			
5			

# 【連絡調整】

## ①情報収集・発信

平成28年度地域人材連携活動計画一覧 NO. 1

授業の支援活動（ボランティアにお願いしたもの、保護者も含む）

学年	教科	月	単元名（教材名）	活動内容（地域人材）
1年	生活	4月	ぐんぐんのびろ	あさがおの種まきの学習支援
		6月	さあ、みんなででかけよう	あかつき公園探検の引率補助（保護者）
		11月	むかしからのあそびをしよう	伝承遊びの学習支援（シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母）
		10月	ぐんぐんのびろ	サツマイモの収穫支援（保護者）
	国語	11月	むかしばなしがいっぱい	日本の昔話の読み聞かせ
2年	生活	5月	レッツゴー町たんけん	町の施設見学引率補助（保護者）
		9月	ぐんぐんのびろ	大根など野菜栽培の学習支援
		11月	昔の遊びを楽しもう	伝承遊びの学習支援（シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母）
		1月	郷土の料理を作ってみよう	しもつかれの意味や作り方についての学習支援（児童の祖母等）
3年	社会	5月	学校のまわり	学校のまわり探検引率補助（保護者）
		11月	古い道具と昔の暮らし	古い道具と昔使われていたものについての説明
	総合的な学習の時間	4月～12月	作ろう、手作り野菜	野菜作りの学習支援
		11・12月	市貝町じまん	市貝町のお祭りや施設、自然などについての説明

地域連携教員の手引き（栃木県教育委員会）より  
（市貝小学校の事例）

# 【連絡調整】

## ①情報収集・発信

【平成〇〇年度地域連携年間活動計画】(例) ※既存の計画(学校支援計画)

	4・5月	6月・7月	9月	10月
1	☆生活 野菜の苗植え 〇〇 〇〇 (連絡先)			
2	☆生活 野菜の苗植え 〇〇 〇〇 (連絡先)	☆生活 生き物さがし 保護者		
3	☆総合 野菜の苗植え 〇〇 〇〇 (連絡先)		☆総合大根作り 〇〇 〇〇 (連絡先)	国語 戦時中の生活 〇〇 〇〇 (連絡先)
4	☆総合 野菜の苗植え 〇〇 〇〇 (連絡先)	図工 のこぎりの使 い方〇〇 〇〇 (連絡先)	☆総合 白菜の苗植え 〇〇 〇〇 (連絡先)	



# 【連絡調整】

## ①情報収集・発信

### ○情報発信の内容

発信する情報の内容としては次のようなものが挙げられます。

活動報告

・ 連携活動の実施状況（活動概要、参加者の声 等）

お知らせ

・ 連携活動に限らず、学校として地域に知らせたい事項等

募 集

・ 学校支援活動等への参加者の募集等

スケジュール

・ 連携活動の予定や学校行事の予定等

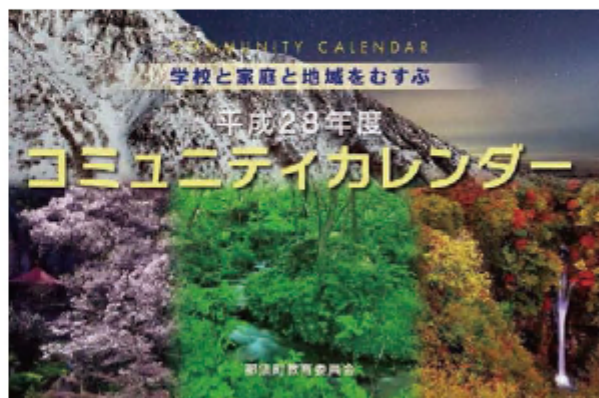
# 【連絡調整】

## ①情報収集・発信

### コミュニティカレンダー

連携体制がある程度整っている学校や地域では、学校行事や連携活動の予定、地域の行事等をカレンダーに記入し、学校と地域の予定が一目で分かる「コミュニティカレンダー」を作成・配布していることもあります。

コミュニティカレンダーにより、連携活動の調整が行いやすくなるとともに、学校と地域の人々の一体感も生まれてきます。



WED	THU
2 オープンデー(高久保育園) 伊王野公民館文化祭~3日 探訪館移動講座①	3 文化の日 駅からハイキング(那須高校) 文化祭(那須中) 黒田原神社泣き相撲
9 校内持久走大会(東陽小、那須小) 校内マラソン大会(那須中) 探訪館移動講座②	10 餅つき(黒田原小) 高齢者交流会(東陽中)

「学校と地域を結ぶコミュニティカレンダー」那須町教育委員会

# 【連絡調整】

## ②連絡調整

《事前打合せ用紙（例）》

活動名（学年・教科・領域等）	（ 年 組 名 教科・領域等： ）		
活動日時	平成 年 月 日（ ）第 校時 時 分～ 時 分		
活動場所			
活動のねらい			
主な活動 （ボランティアの具体的な活動内容等）	1 あいさつ	準備物等	
	2 学習活動①		
	3 学習活動②		
	4 まとめ		
連絡事項	<input type="checkbox"/> 集合時間 <input type="checkbox"/> 交通手段 <input type="checkbox"/> 経費 <input type="checkbox"/> 学校からのお願い（別紙参照） <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 集合場所 <input type="checkbox"/> 資料印刷 <input type="checkbox"/> ボランティア保険	
ボランティアの	名 前	連絡先（Tel等）	連絡時間

地域連携教員の手引き  
（栃木県教育委員会）より

# 【取組の充実】

## ① 評価

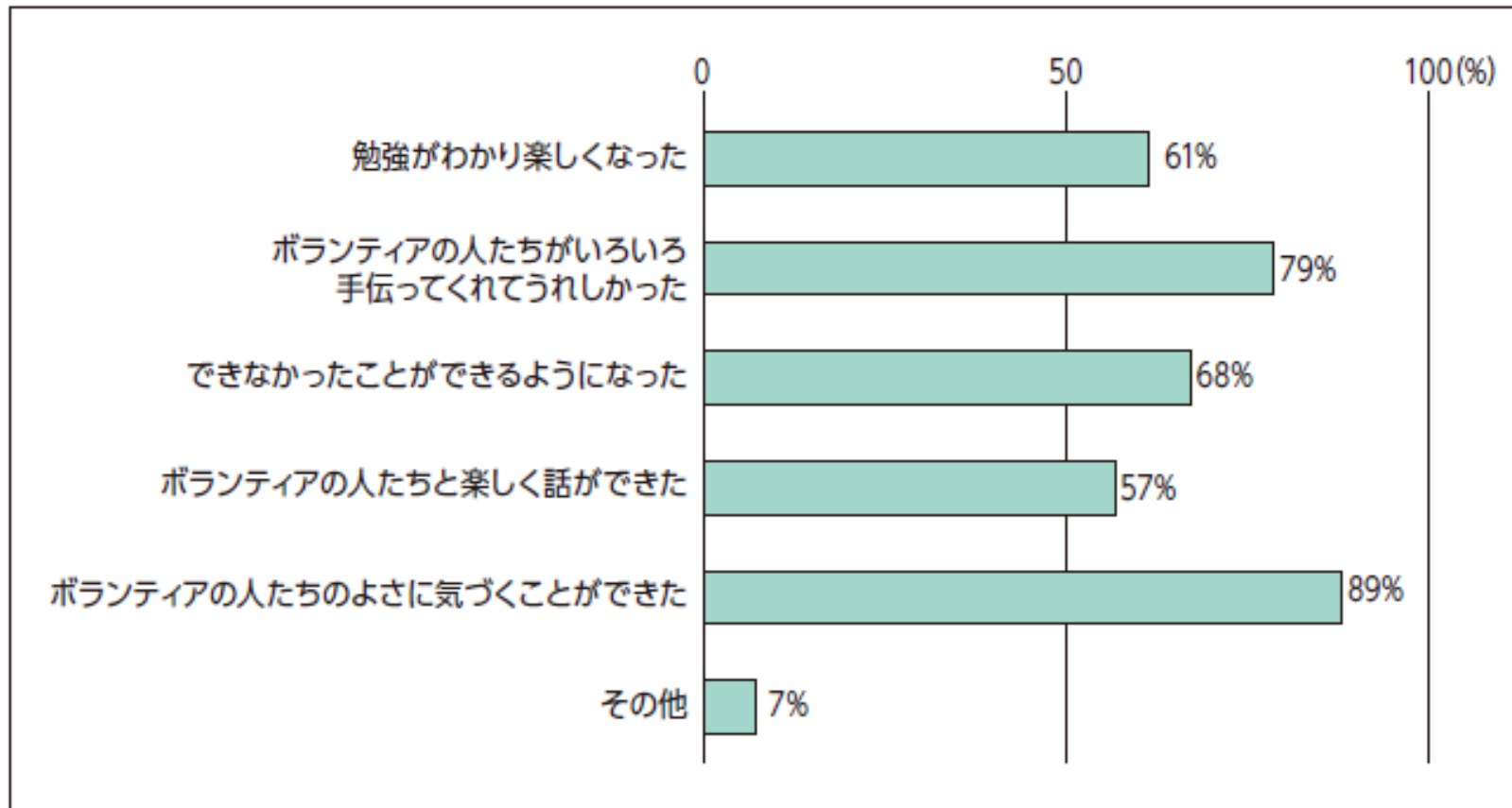
### 学校支援ボランティアに関する質問紙（児童用）（市貝町立市貝小学校）

学校支援ボランティアのアンケート  
( ) 年 ( ) 組 ( ) 番

- 市貝小学校では、先生以外の地域の人たちが、ボランティアとして学校に来て、いろいろな手伝いをしてきています。来てくれてよかったことは何ですか。当てはまるものすべてに○を付けてください。  
( ) 勉強がわかり楽しくなった。  
( ) ボランティアの人たちがいろいろ手伝ってくれてうれしかった。  
( ) できなかったことができるようになった。  
( ) ボランティアの人たちと楽しく話げできた。  
( ) ボランティアの人たちのよさに気付くことができた。  
( ) その他 ( )
- ボランティアの人たちが学校に来て困ったことはありますか。  
( ) ある ( )  
( ) ない
- ボランティアの人たちに他に手伝ってほしいことはありますか。  
( ) ある ( )  
( ) ない
- 大人になったら、ボランティアとして、学校に来ていろいろな手伝いをしてみたいですか。  
( ) はい、 ( ) いいえ、

# 【取組の充実】

## ① 評価



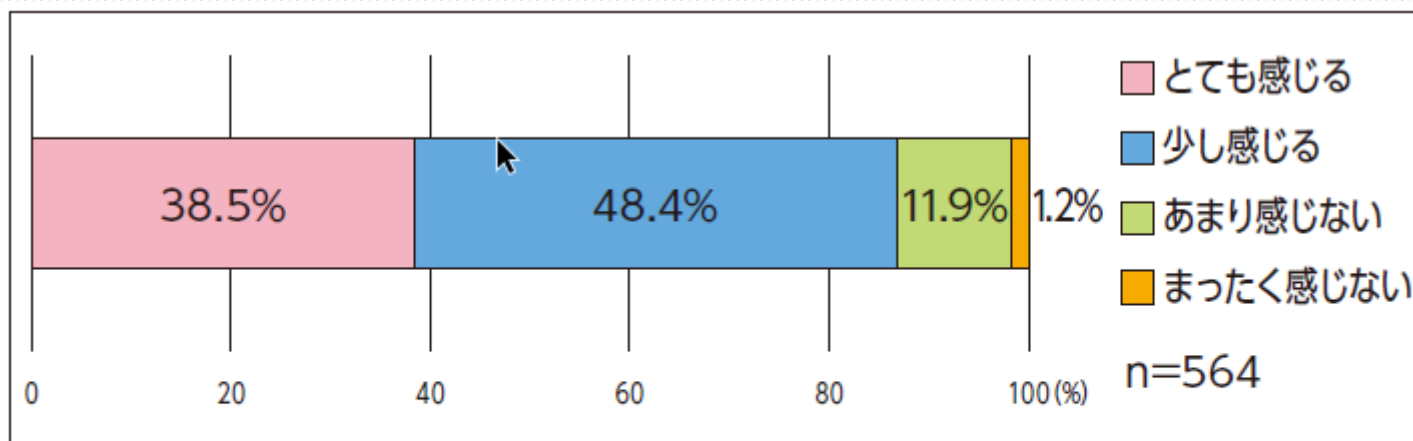
### 児童へのアンケート結果（市貝小学校）

地域連携教員の手引き(栃木県教育委員会)より



## IV. 設置の効果

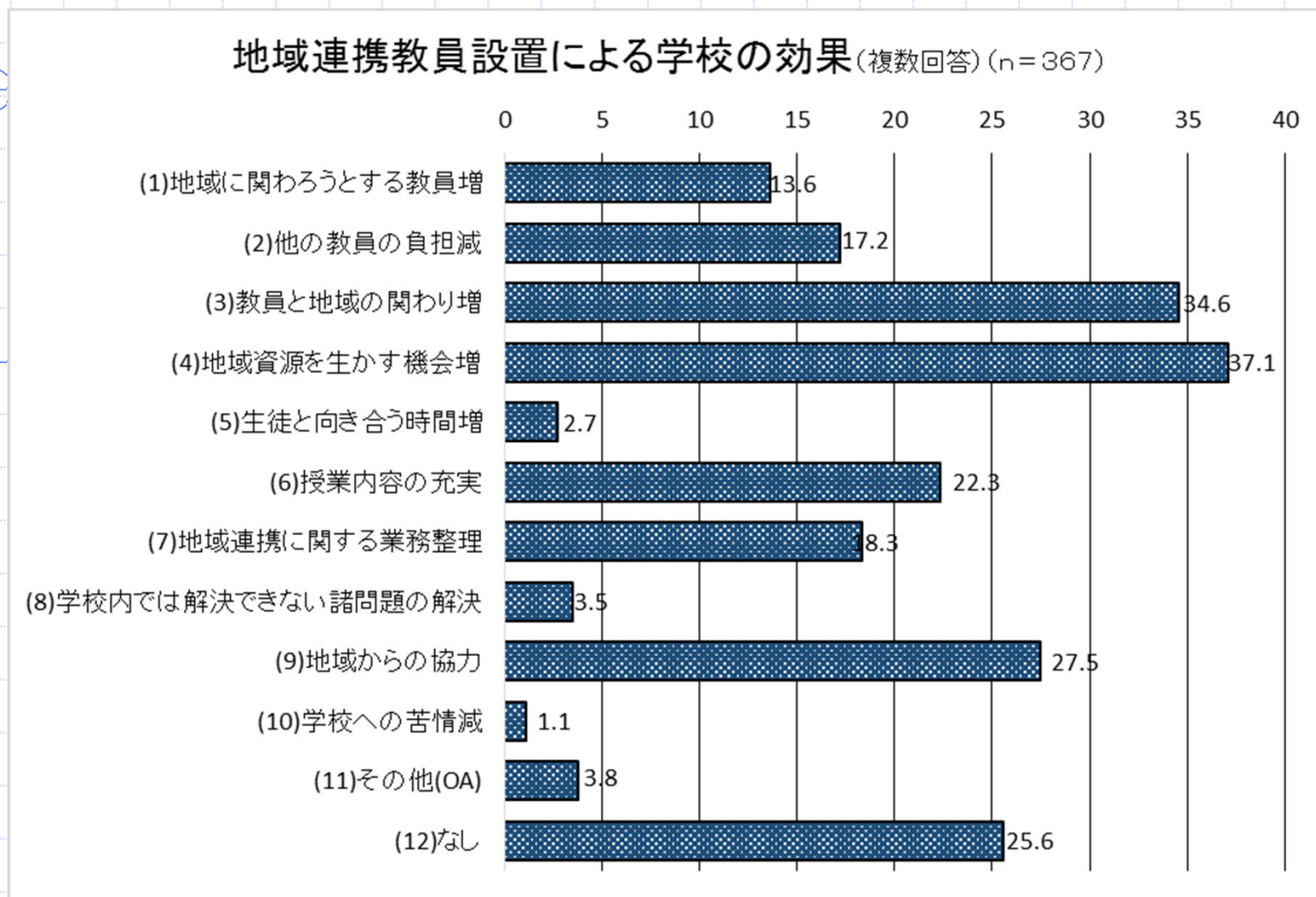
# (1) 地域連携教員の実感



## 地域連携教員の設置に重要性を感じるか

栃木県総合教育センター調査（平成 28 年）

## (2) 設置の効果

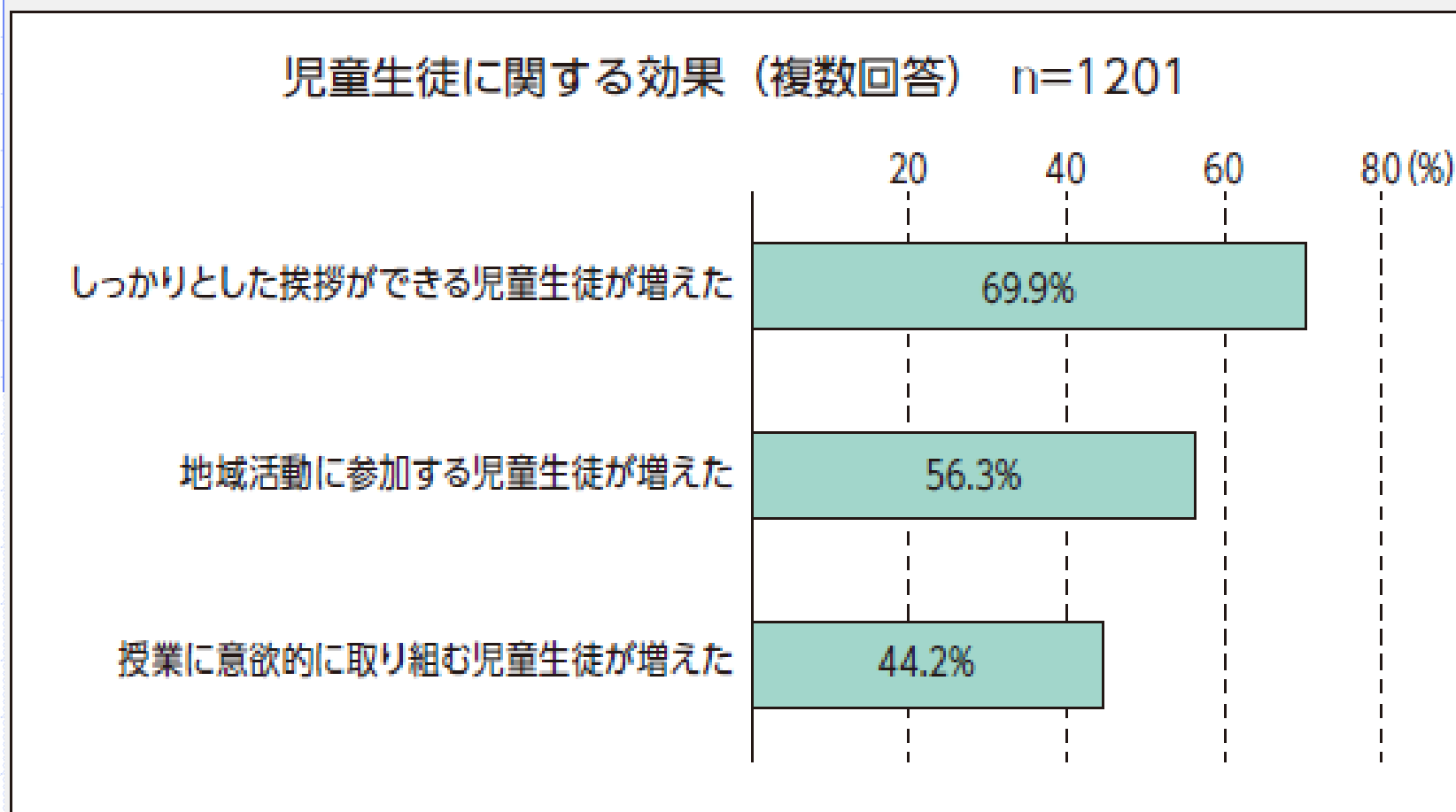


「栃木県の地域連携教員設置におけるその効果と課題」

平成28年度国立教育政策研究所社会教育実践研究センター実務研修生研究報告書

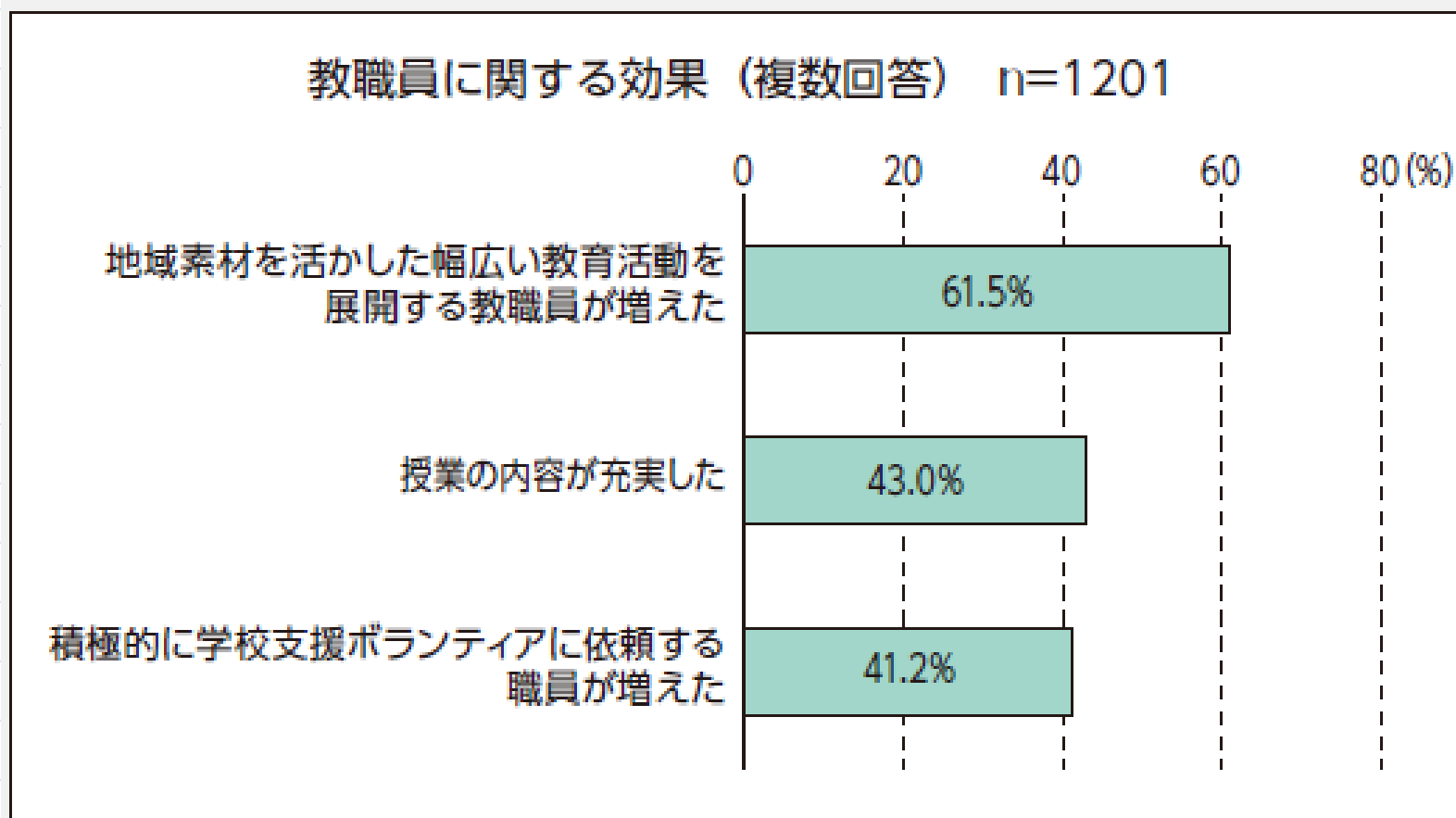


## (2) 設置の効果



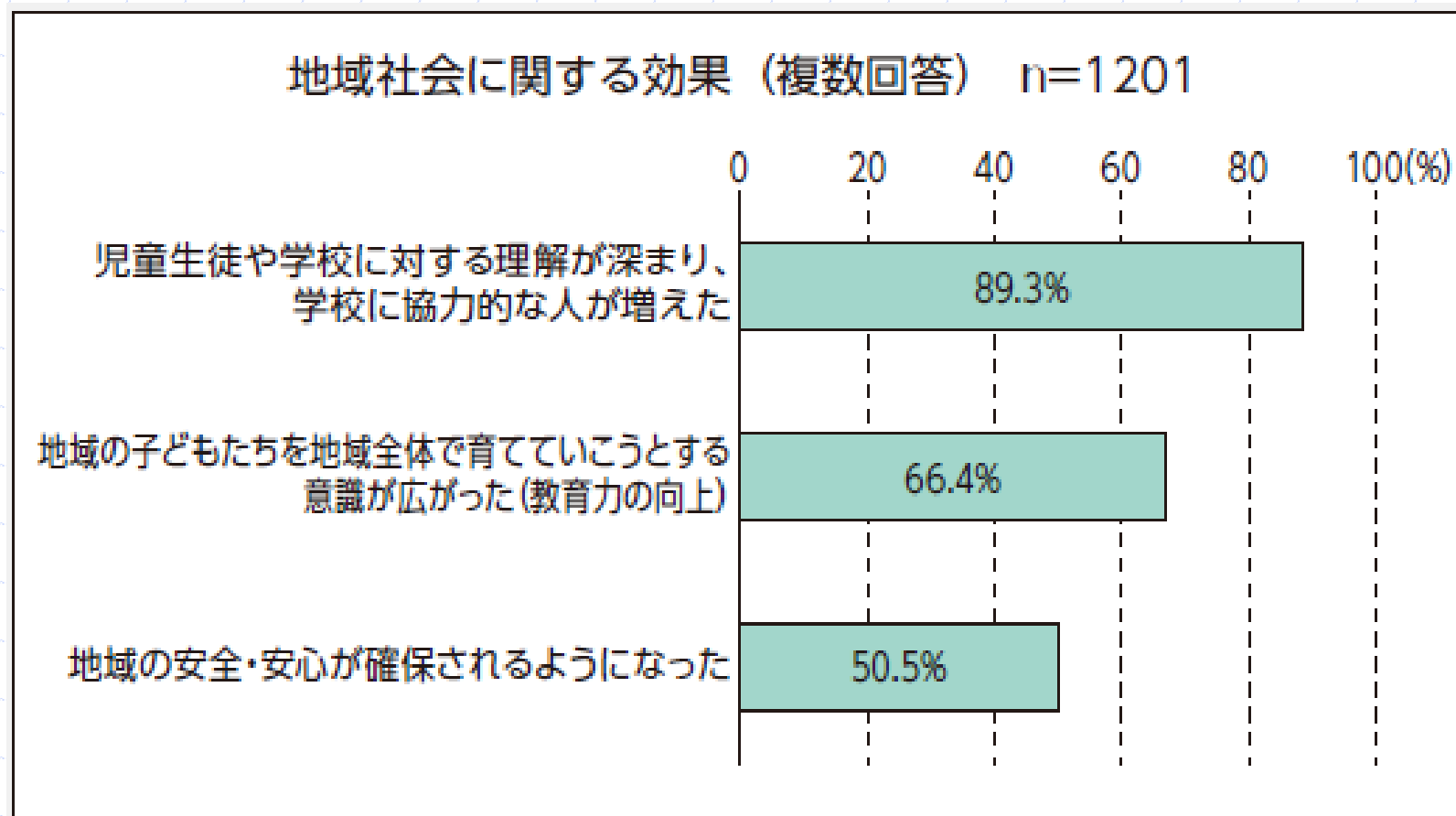
栃木県総合教育センター調査（平成27年）

## (2) 設置の効果



栃木県総合教育センター調査（平成 27 年）

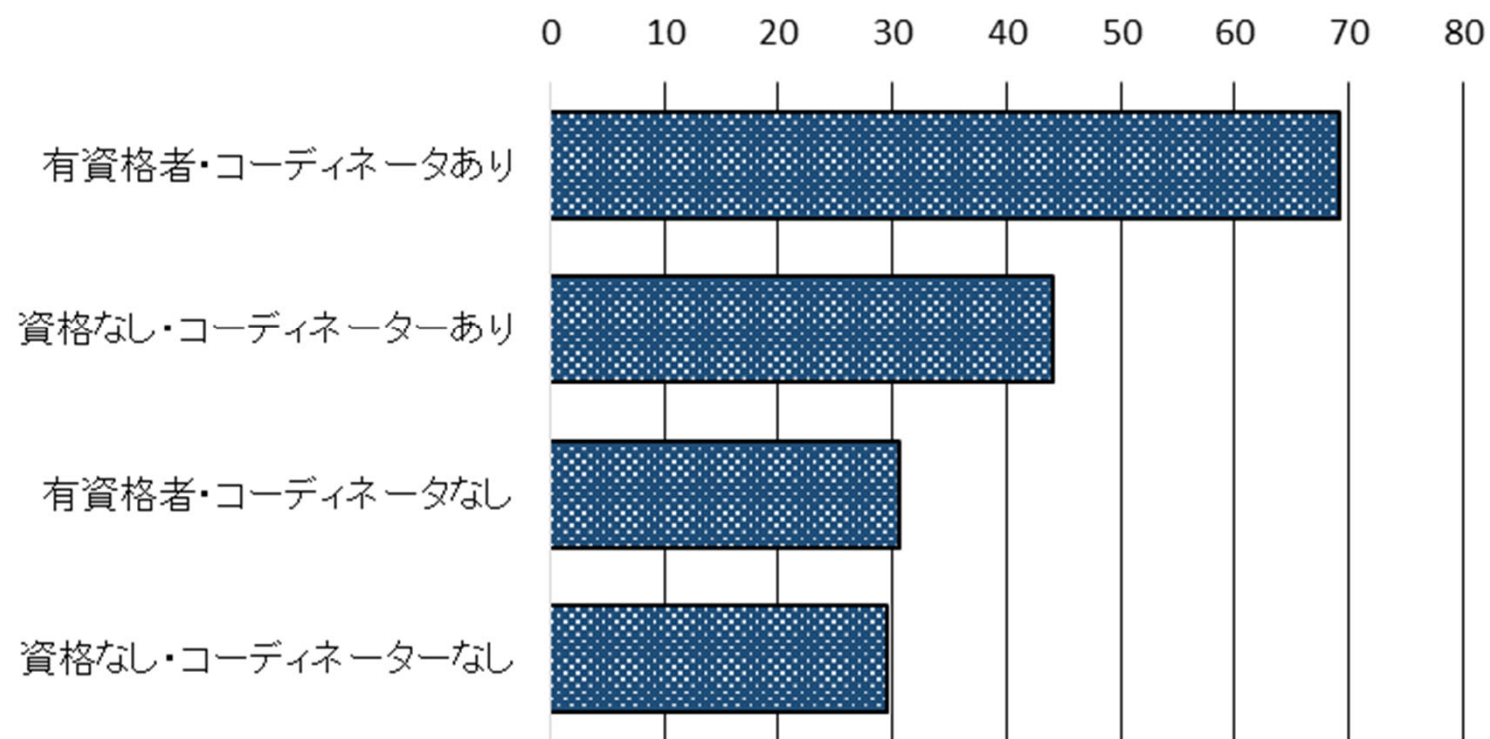
## (2) 設置の効果



栃木県総合教育センター調査（平成 27 年）

# 設置の効果

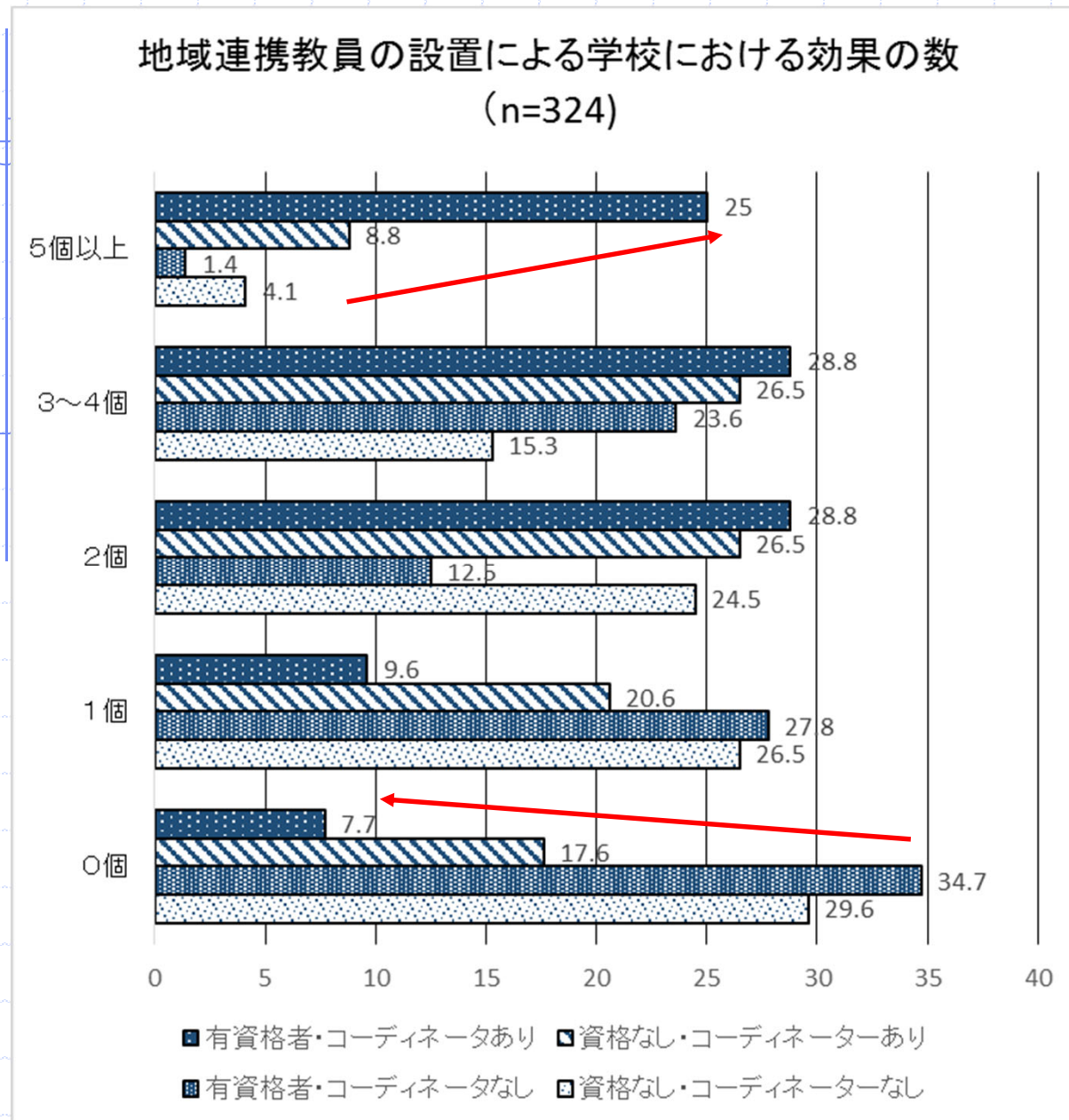
学校に協力的な住民が増えた(n=95)



「栃木県の地域連携教員設置におけるその効果と課題」

平成28年度国立教育政策研究所社会教育実践研究センター実務研修生研究報告書

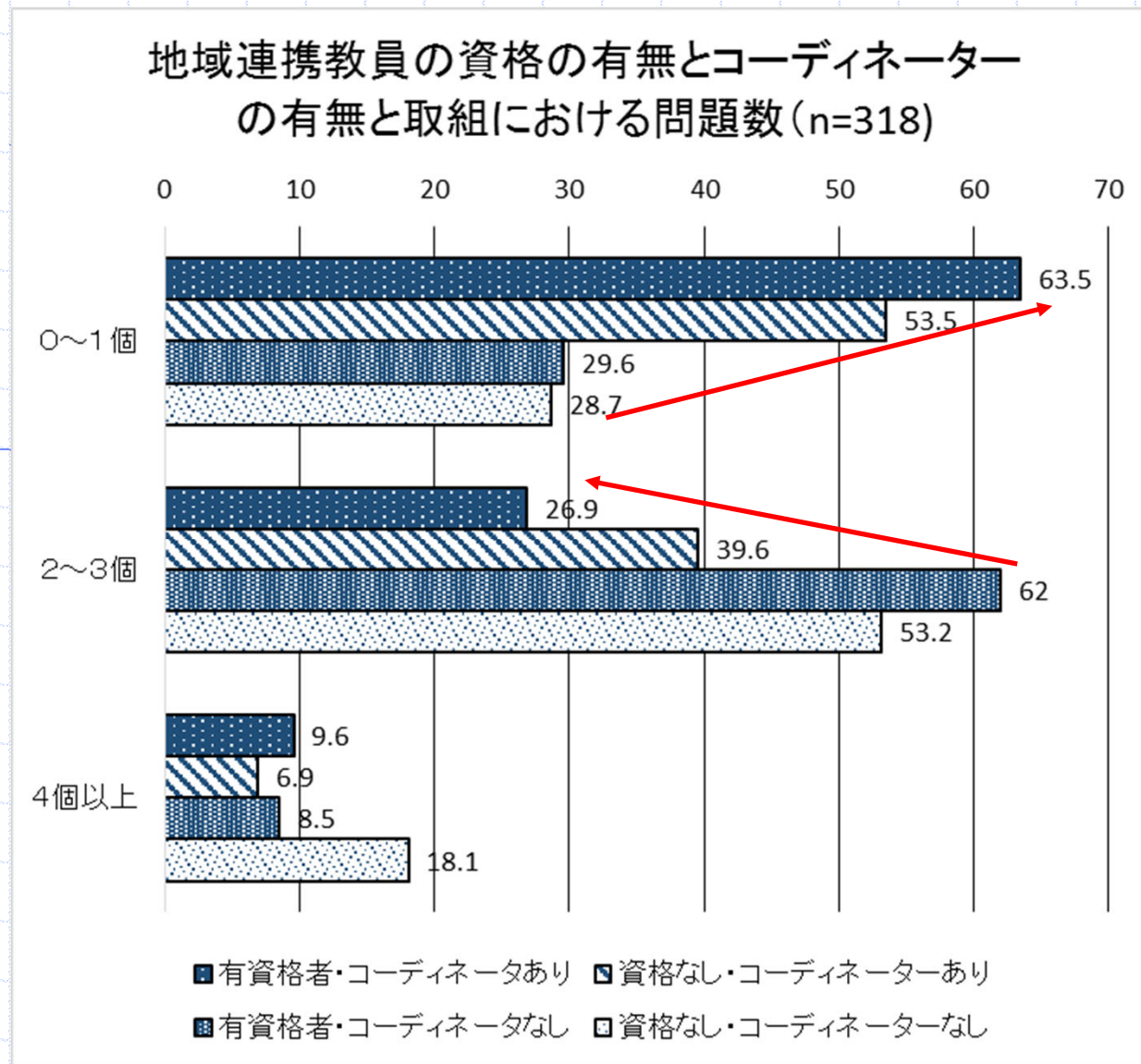
## (2) 設置の効果



「栃木県の地域連携教員  
設置におけるその効果と  
課題」

平成28年度国立教育政策  
研究所社会教育実践研究  
センター実務研修生研究  
報告書

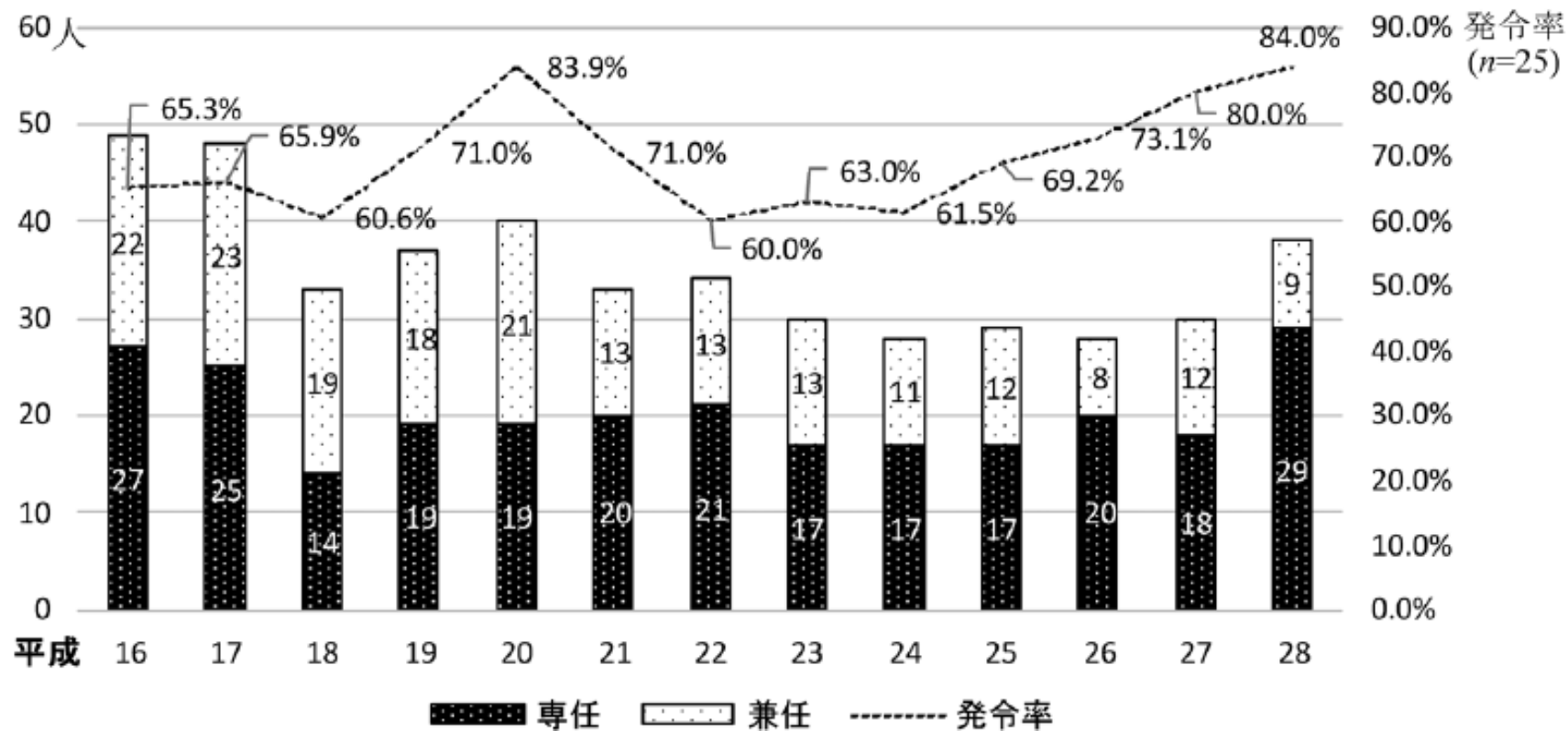
## (2) 設置の効果



「栃木県の地域連携教員  
設置におけるその効果と  
課題」

平成28年度国立教育政策  
研究所社会教育実践研究  
センター実務研修生研究  
報告書

# 設置の効果



社会教育主事の発令状況（栃木県）



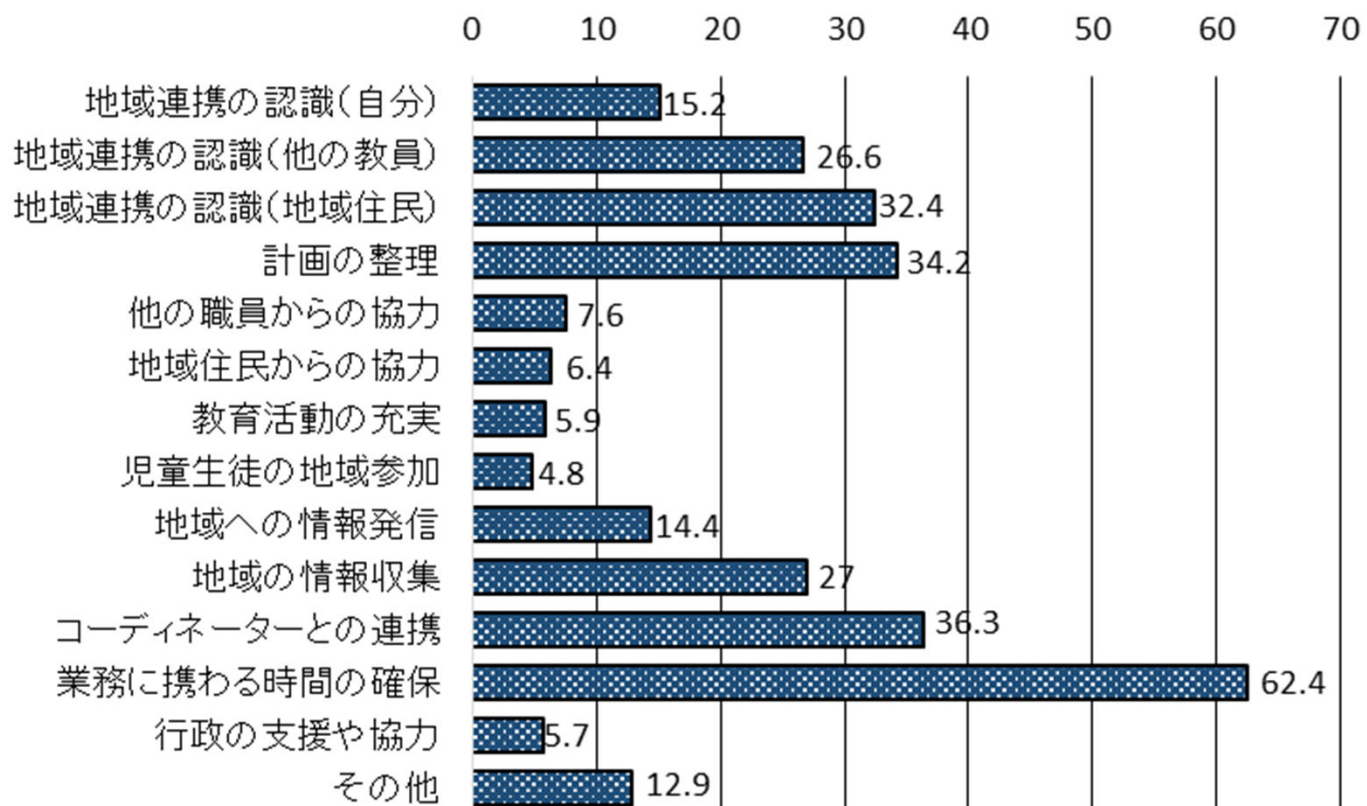
# V. 今後の課題



# 今後の課題

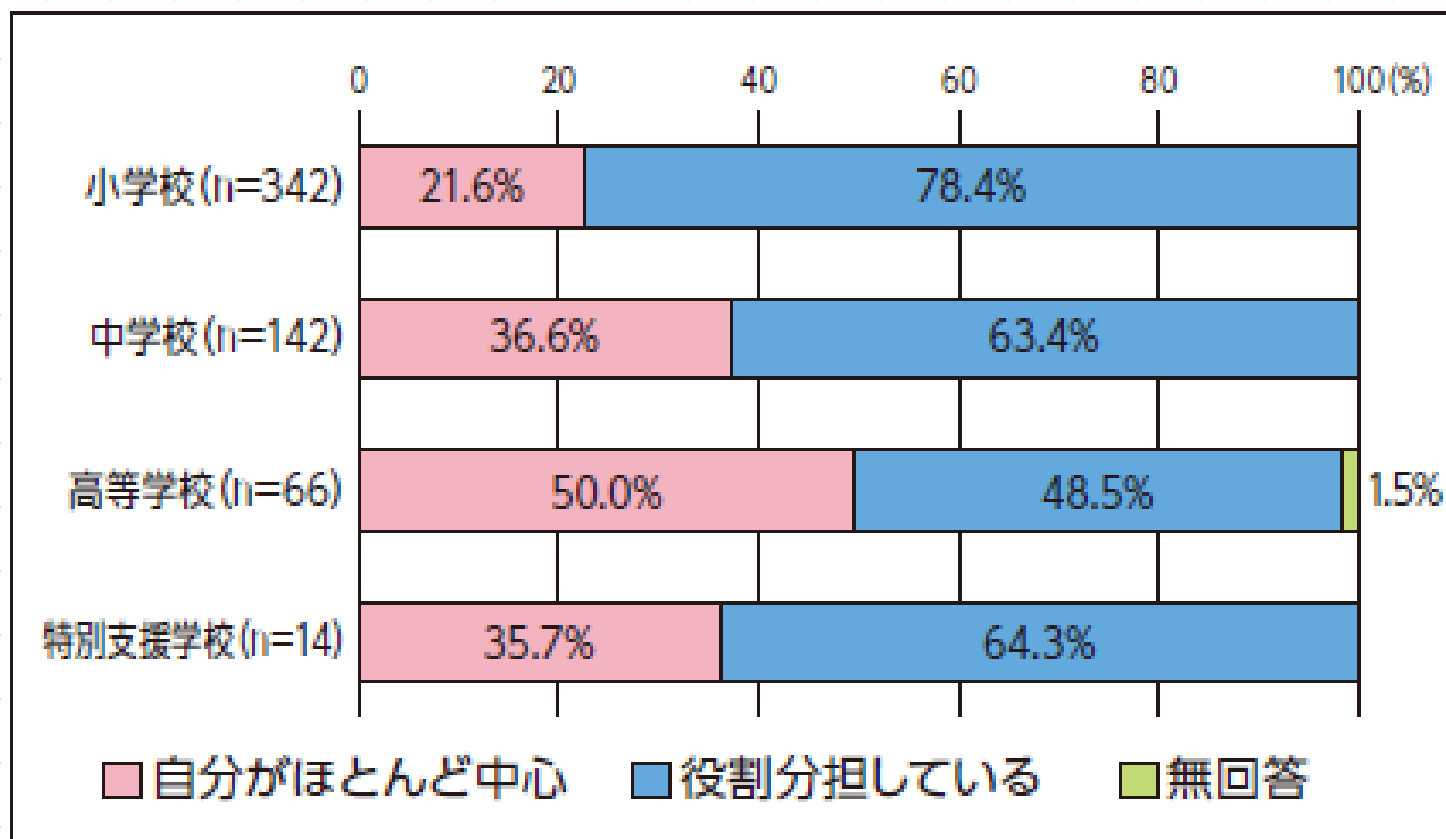
## 地域連携教員として業務を進めてきての課題

(n=564)



平成27年度「地域連携教員の实態に関する調査研究」報告書  
栃木県総合教育センター(平成28年3月)

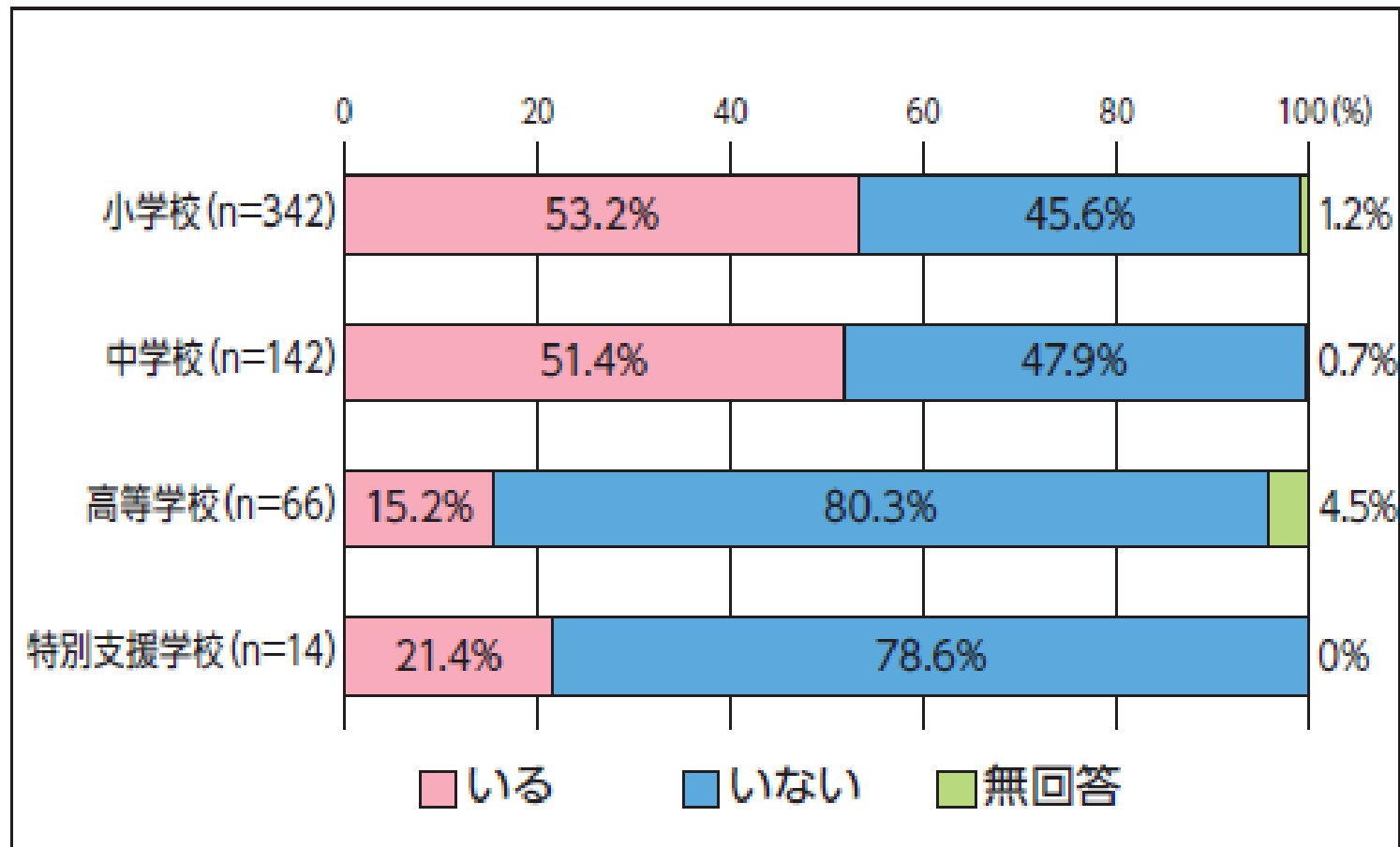
# チーム体制の構築



地域連携に関する取組をチームで進めているか

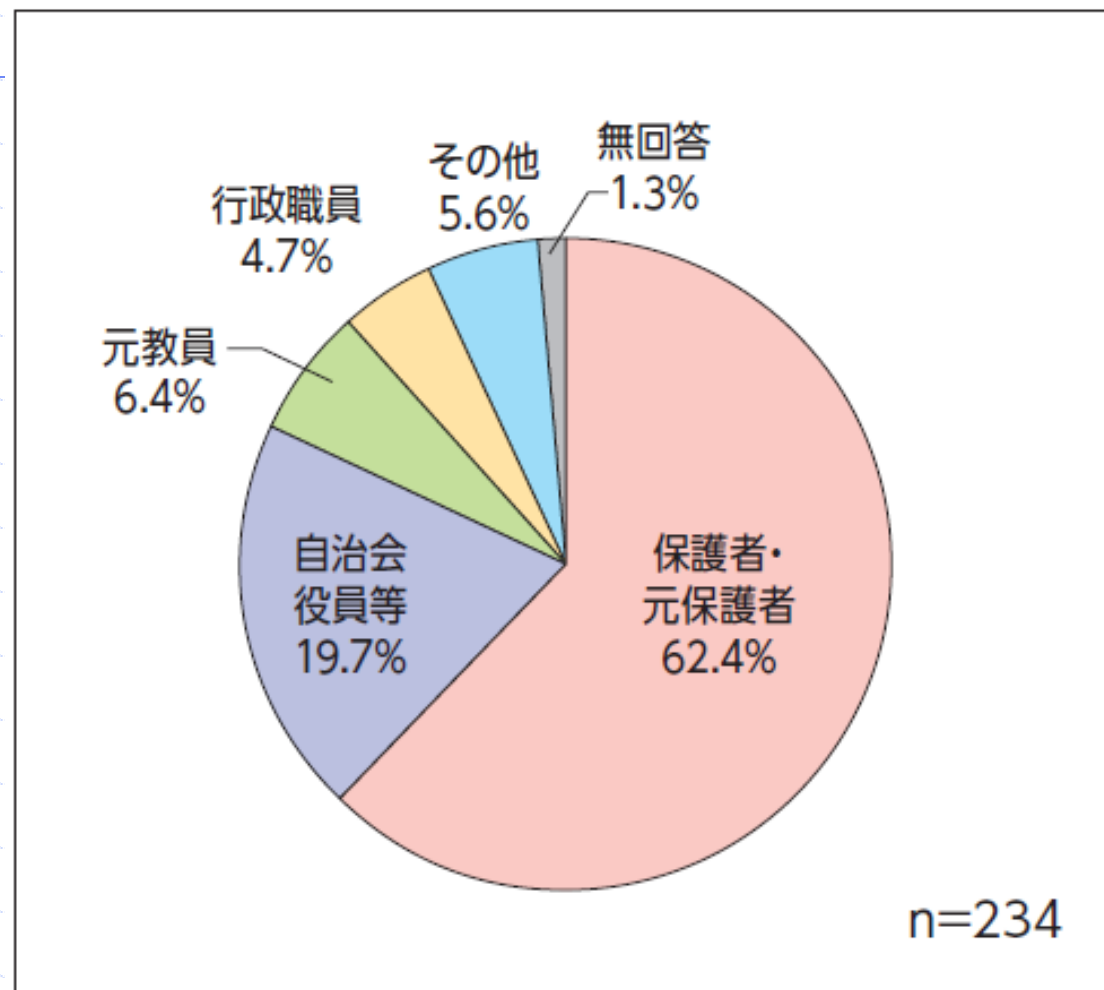
栃木県総合教育センター調査 (平成 28 年)

# コーディネーターの配置状況(栃木県)

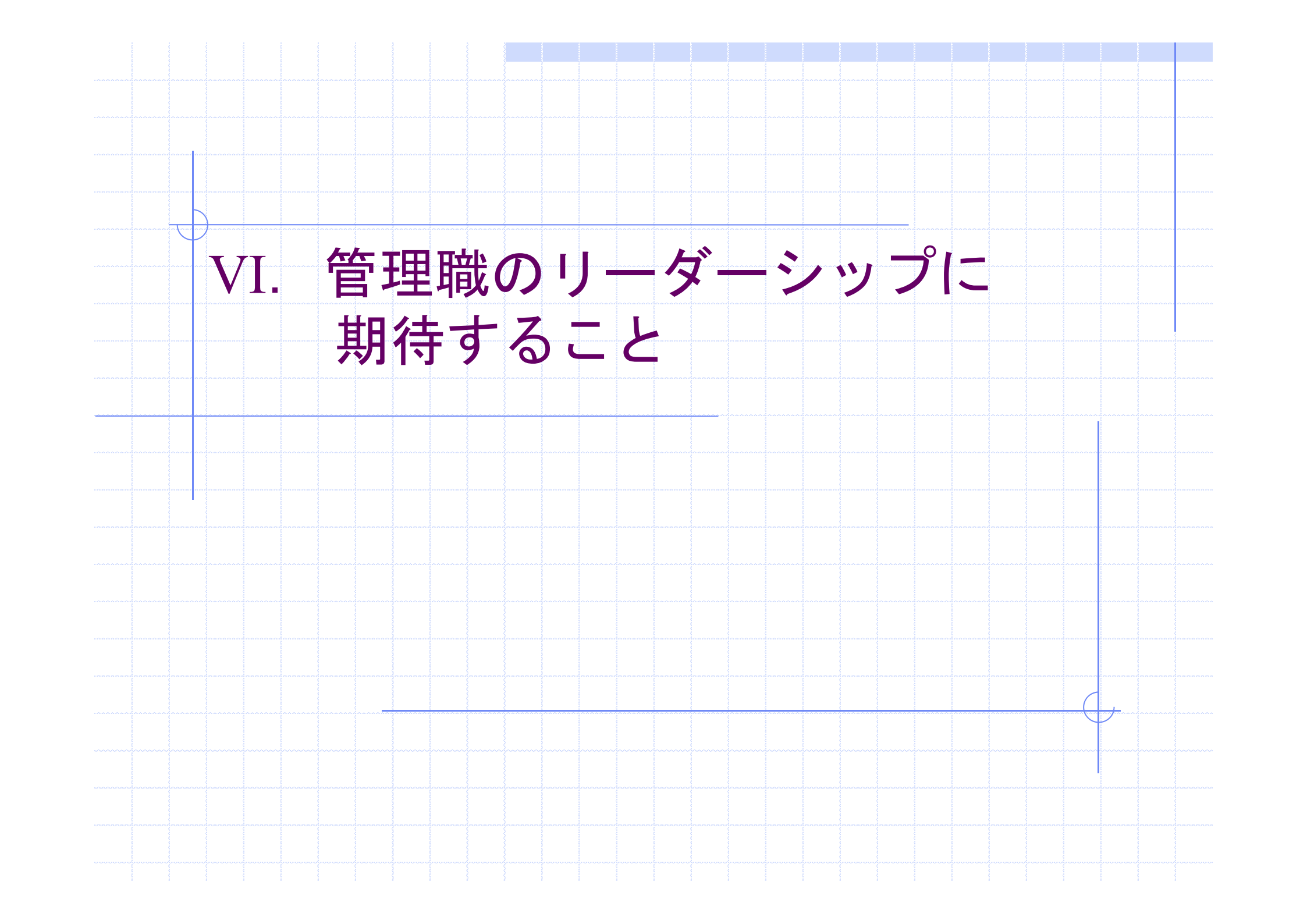


栃木県総合教育センター調べ(H28)

# ①コーディネーターの設置支援



平成27年度「地域連携教員の実態に関する調査研究」報告書  
栃木県総合教育センター(平成28年3月)



## VI. 管理職のリーダーシップに 期待すること

## 学校と地域の連携の展開に必要な要素

- ① 地域連携の意義の共有
- ② 教員の成功体験
- ③ 管理職のリーダーシップ
- ④ 地域づくりを目指した展開  
(学校を核とした地域づくり)

## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

- (1) 学校づくり(在り方)に関すること
  - ① 学校としての連携方針の表明
  - ② 「学力」の捉え方の表明
- (2) 連携活動の充実に関すること
  - ① 教育課程への地域の教育力の導入
  - ② 連携活動の充実
- (3) 連携・協働の方法に関すること
  - ① 連携会議の持ち方の工夫
  - ② 地域との連携・協働の視点

## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

(1) 学校づくり(在り方)に関すること

① 学校としての地域連携方針の表明

(何のために、何を、どこまで実施するか)

→これが無いと教員が動かない

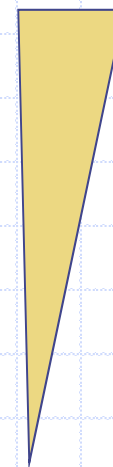
例) コミュニティ・スクールを目指す

教育目標に位置付ける

教科活動において連携する

特活等の領域において連携する

環境整備や見守り活動のみでの連携



密

疎



## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

(1) 学校づくり(在り方)に関すること

②「学力」の捉え方の表明

(学力の3要素をどう捉えるか！?)

→連携活動を何のために

どこまで実施するか

→学校づくりの基本姿勢を示す必要

# ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

学力：「知識・技能」

「思考力・判断力・表現力」

「主体性・多様性・協働性」

学校教育法30条2項

学習の内容 場

系統的な学習 学校

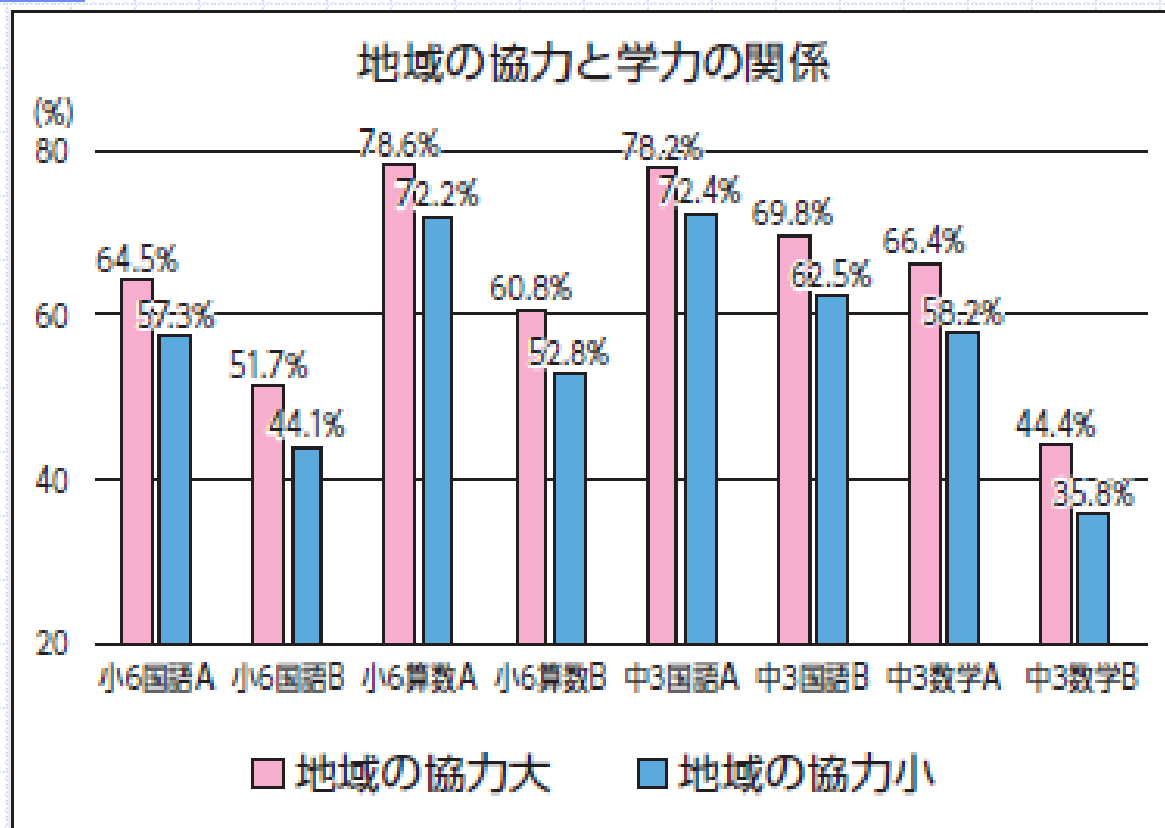
カリキュラム・マネジメント

体験的な学習 地域

生きる力：「確かな学力」  
「豊かな人間性」  
「健康・体力」

生きる力の修得には、更に  
地域が必要

## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと



国立大学法人お茶の水女子大学調査（平成 26 年）

地域との連携・協働は必要ないと言えるのか！？

# ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

## (2) 連携活動の充実に関すること

### ① 教育課程への地域の教育力の導入

→これが無いと教育課程の質が向上しない

例) 各教科・領域に地域の人材が関わる意義を明確にする  
各教科・領域において地域人材の導入を検討する

# 地域の教育力を取り入れる意義を確認する

「地域連携推進により期待される効果」一覧（「活用する力」を高めるための「発達課題」の解決と目指したい児童像）

具体的な能力や態度	活動場面・単元等（活動内容）	目指したい児童像 ※は応用的な事柄（ ）は評価方法（低）～（高）は学年ブロックを示す。
自己理解 自分には、どのような特徴や興味・関心があるか、自分はどのような環境に置かれているか、自分は将来に対してどのような夢や希望を持っているかなどについての客観的、具体的な認識	2年生 生活科「レッツゴー町たんけん」	(低) ・働く喜びや仕事の必要性などに気付くことができる。 (中) ・地域における警察や消防の役割を知り、防犯や防災についての意識を高め、学校生活でそれを生かすとともに自分の役割について考えることができる。 (高) ・特色ある地域の暮らしについて知り、自己理解を踏まえた職業選択などの目標をもつことができる。
	3年生 総合「市貝町じまん」	
	4年生 社会科「火事から暮らしを守る」	
	4年生 社会科「事件や事故から暮らしを守る」	
	4年生 社会科「特色ある地域と暮らし」	
	5年生 家庭科「はじめてのソーイング」	
他者理解 相手の性格やものの方及び価値観、能力、興味・関心、行動観察についての理解	5年生 総合「今、考えよう わたしたちの食」	(低) ・働く喜びや仕事の必要性などに気付くことができる。 (中) ・地域における警察や消防の役割を知り、防犯や防災について自分の役割について考えることができる。 (高) ・家庭科における製作活動を通して、努力ややり遂げた達成感
	5年生 家庭科「はじめてのソーイング」	
	5年生 総合「今、考えよう わたしたちの食」	
	6年生 家庭科「生活を楽しくしよう ソーイング」	
	1年生 生活科「むかしからのあそびをしよう」	
	2年生 生活科「音の遊びを楽しもう」	
共感性 相手の体験及び感情的状態、考えなどを、自己体験と同じように感じた解したりする資質や能力	2年生 生活科「レッツゴー町たんけん」	(低) ・説明してくれる人の話を最後までしっかりと聞き、感想を自分の言葉で表現する。 (中) ・地域の人々への関心を持ち、仕事への理解や自分の感想を「音遊び」の学習での高齢者との交流を通して感謝の言葉を伝える。 (高) ・食の大切さを知り、それを支える人々の苦勞について感想を述べ、自分と違う意見に対して、相手の考えを聴きながら自分の考えを伝える。
	3年生 社会科「古い道具と音の暮らし」	
	3年生 総合「市貝町じまん」	
	4年生 社会科「特色ある地域と暮らし」	
	5年生 総合「今、考えよう わたしたちの食」	
	6年生 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」	

# 地域の教育力を取り入れる場面を検討する

## 平成28年度地域人材連携活動計画一覧 NO. 1

授業の支援活動（ボランティアにお願いしたもの、保護者も含む）

学年	教科	月	単元名（教材名）	活動内容（地域人材）
1年	生活	4月	ぐんぐんのびろ	あさがおの種まきの学習支援
		6月	さあ、みんなででかけよう	あかつき公園探検の引率補助（保護者）
		11月	むかしからのあそびをしよう	伝承遊びの学習支援（シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母）
		10月	ぐんぐんのびろ	サツマイモの収穫支援（保護者）
	国語	11月	むかしばなしがいっぱい	日本の昔話の読み聞かせ
2年	生活	5月	レッツゴー町たんけん	町の施設見学引率補助（保護者）
		9月	ぐんぐんのびろ	大根など野菜栽培の学習支援
		11月	昔の遊びを楽しもう	伝承遊びの学習支援（シニアアクティブクラブ、オビニオンリーダー、児童の祖父母）
		1月	郷土の料理を作ってみよう	しもつかれの意味や作り方についての学習支援（児童の祖母等）
3年	社会	5月	学校のまわり	学校のまわり探検引率補助（保護者）
		11月	古い道具と昔の暮らし	古い道具と昔使われていたものについての説明
	総合的な学習の時間	4月～12月	作ろう、手作り野菜	野菜作りの学習支援
		11・12月	市貝町じまん	市貝町のお祭りや施設、自然などについての説明

地域連携教員の手引き（栃木県教育委員会）より  
（市貝小学校の事例）

## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

### (2) 連携活動の充実に関すること

#### ②活動のための連携先の開拓 (発達段階に応じた連携)

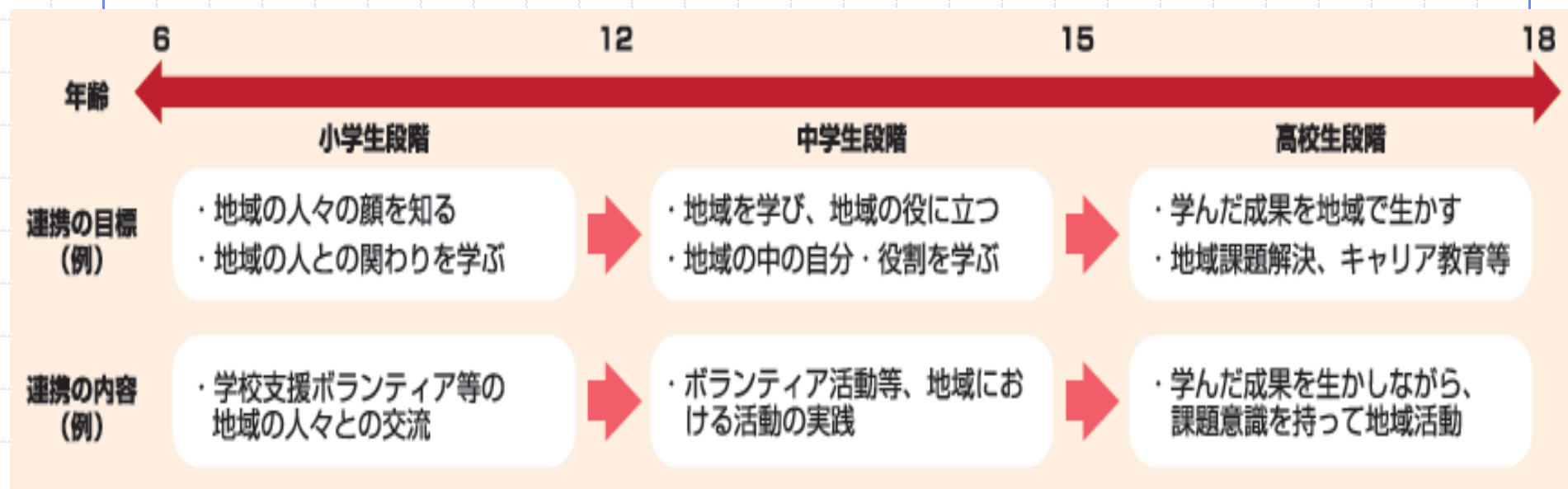
→子どもたちの成長を俯瞰する

例)PTA、自治会、商店会、公民館、関係団体、行政  
企業、高等教育機関 等々

→子どもの時に体験すべき経験がある

→子どもが主体的に参加できる環境づくり

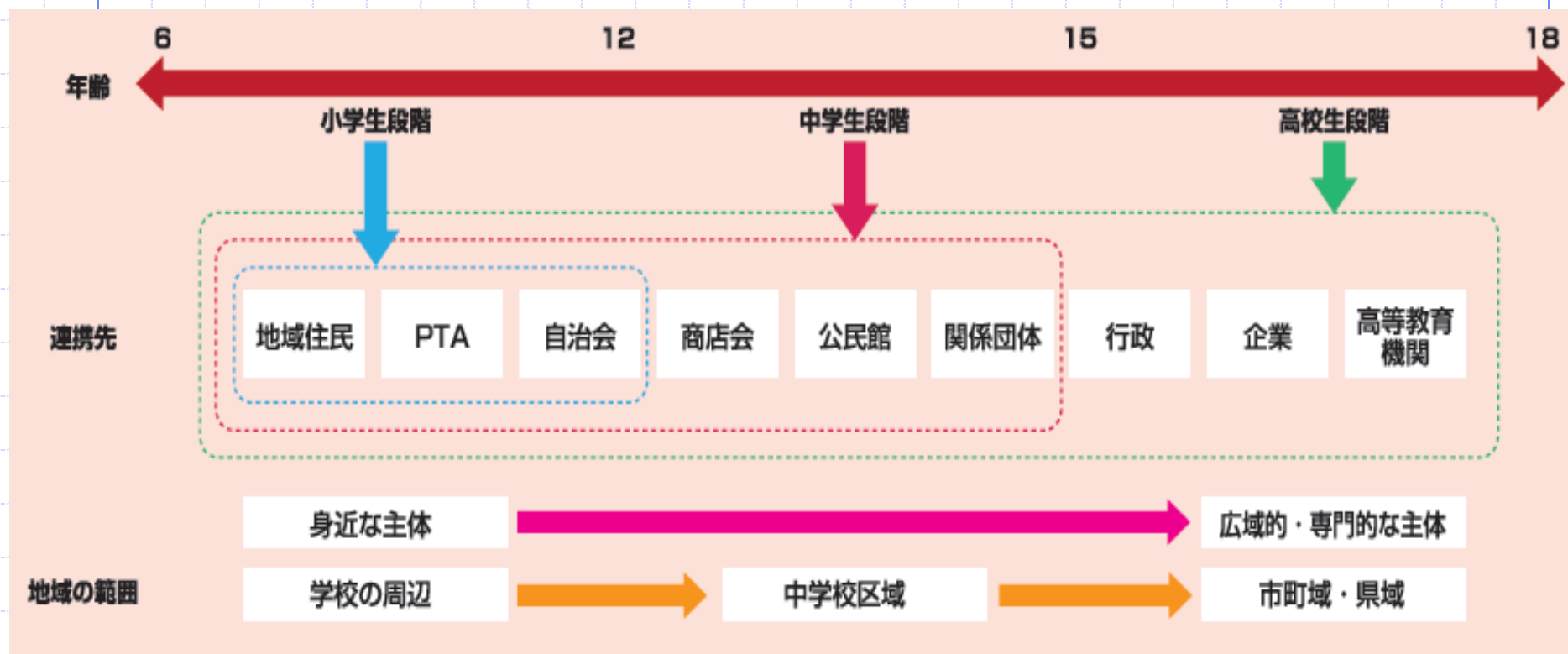
# 地域連携における目標や内容(目安)



それぞれの発達の段階において、体験しておくべきことを体験しておくことが重要。



# 発達段階による地域の捉え方(目安)



## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

### (3) 連携・協働の方法に関すること

#### ① 連携・協働を話し合う場の設定

- ・ 連携会議の持ち方の工夫
- ・ まずは、既存の取組や会議の活用

→ 教員の負担感を減らすためにも

例) 学校支援センター、地域学校協働活動 等

## ◇管理職のリーダーシップが必要なこと

### (3) 連携・協働の方法に関すること

#### ②地域との連携・協働の視点

・既存の地域組織・活動の活用

→社会教育関係団体、社会教育行政等の活用

地域学校協働本部、地域コーディネーター 等

例) 公民館、図書館、博物館、子ども会育成会、自治会、  
子育て支援グループ、ボランティアグループ 等

→地域には頼れる「ヒト」「モノ」「コト」があります

## VII. 管理職として取り組んでいること

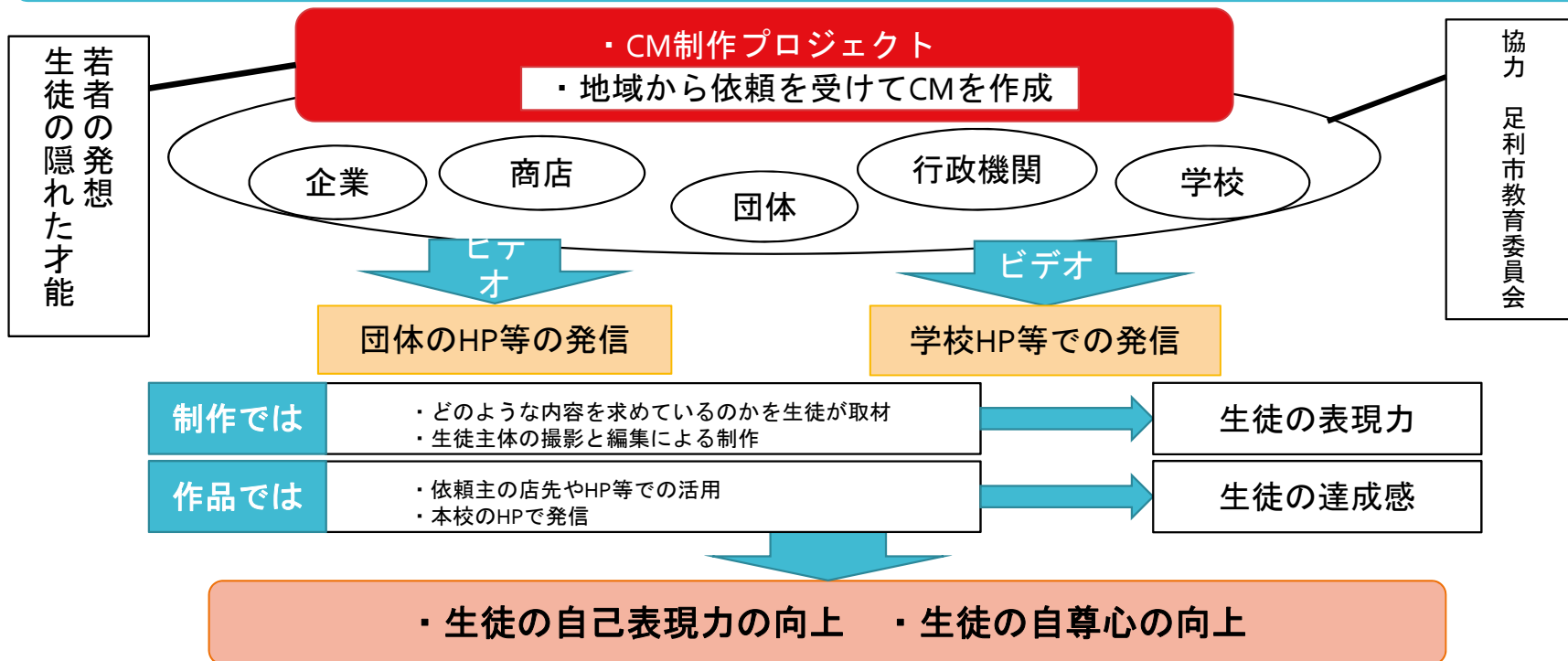
# CM制作プロジェクト 概要

課題

- ・生徒の自己表現力の向上（うまく→話せない、書けない・・・）
- ・生徒の自尊感情の向上（褒められ不足、自分の価値が分からない・・・）

策方

- ・地域の方々との交流を通して、自分を表現する機会を得る。
- ・学校だけでなく、地域の中で活動し、地域の役に立つ経験をする。



第11回あきたの教師力高度化フォーラム

令和3年2月20日(土)

終



栃木県立足利工業高等学校

教頭 井上昌幸

第11回 あきたの教師力高度化フォーラム

# 地域とともにある学校づくり ～二ツ井小学校の取り組み状況～

令和3年2月20日（土）  
能代市立二ツ井小学校  
佐藤 潔

# 学習指導要領改訂の方向性

未来社会を切り拓くための資質・能力を育成

何ができるよう  
になるか  
学びに向かう力、人間性等

3つの柱

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な  
資質・能力を育む **「社会に開かれた教育課程」** の実現

何を学ぶか  
知識・技能

どのように学ぶか  
思考力・判断力・表現力等

アクティブ・ラーニングの視点

実施するために何が**必要か**



○ 学校の指導体制の充実

○ **家庭・地域との連携・協働**



## これからの教育課程の理念

### <社会に開かれた教育課程>

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

教育課程そのものを社会に開いていくことが重要

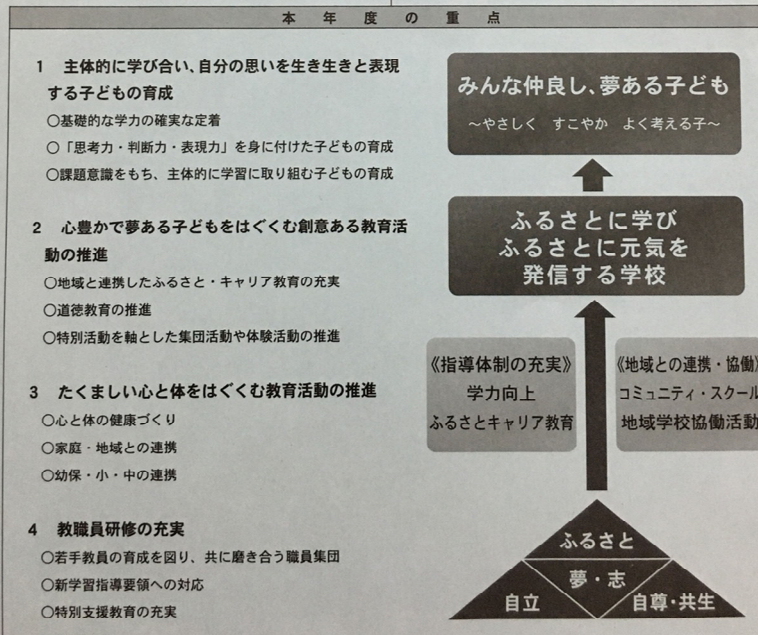
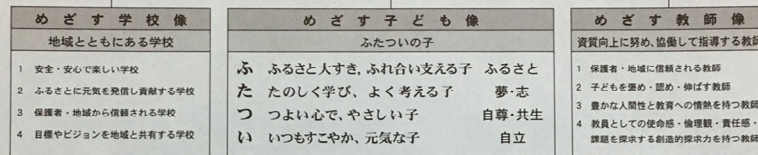
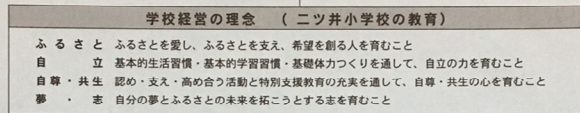
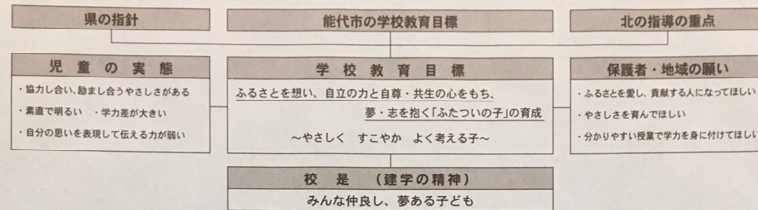
# 「社会に開かれた教育課程」を実現するために必要な 体制づくり

- ① 地域学校協働活動
- ② コミュニティ・スクール
- ③ 社会教育主事

# 能代市立二ツ井小学校



学校経営の全体構想 能代市立二ツ井小学校



本 年 度 の 重 点

1 主体的に学び合い、自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成

- 基礎的な学力の確実な定着
- 「思考力・判断力・表現力」を身に付けた子どもの育成
- 課題意識をもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成

2 心豊かで夢ある子どもをはぐくむ創意ある教育活動の推進

- 地域と連携したふるさと・キャリア教育の充実
- 道徳教育の推進
- 特別活動を軸とした集団活動や体験活動の推進

3 たくましい心と体をはぐくむ教育活動の推進

- 心と体の健康づくり
- 家庭・地域との連携
- 幼保・小・中の連携

4 教職員研修の充実

- 若手教員の育成を図り、共に磨き合う職員集団
- 新学習指導要領への対応
- 特別支援教育の充実

みんな仲良し、夢ある子ども

～やさしく すこやか よく考える子～

ふるさとに学び  
ふるさとに元気を  
発信する学校

《指導体制の充実》  
学力向上  
ふるさとキャリア教育

《地域との連携・協働》  
コミュニティ・スクール  
地域学校協働活動

ふるさと

夢・志

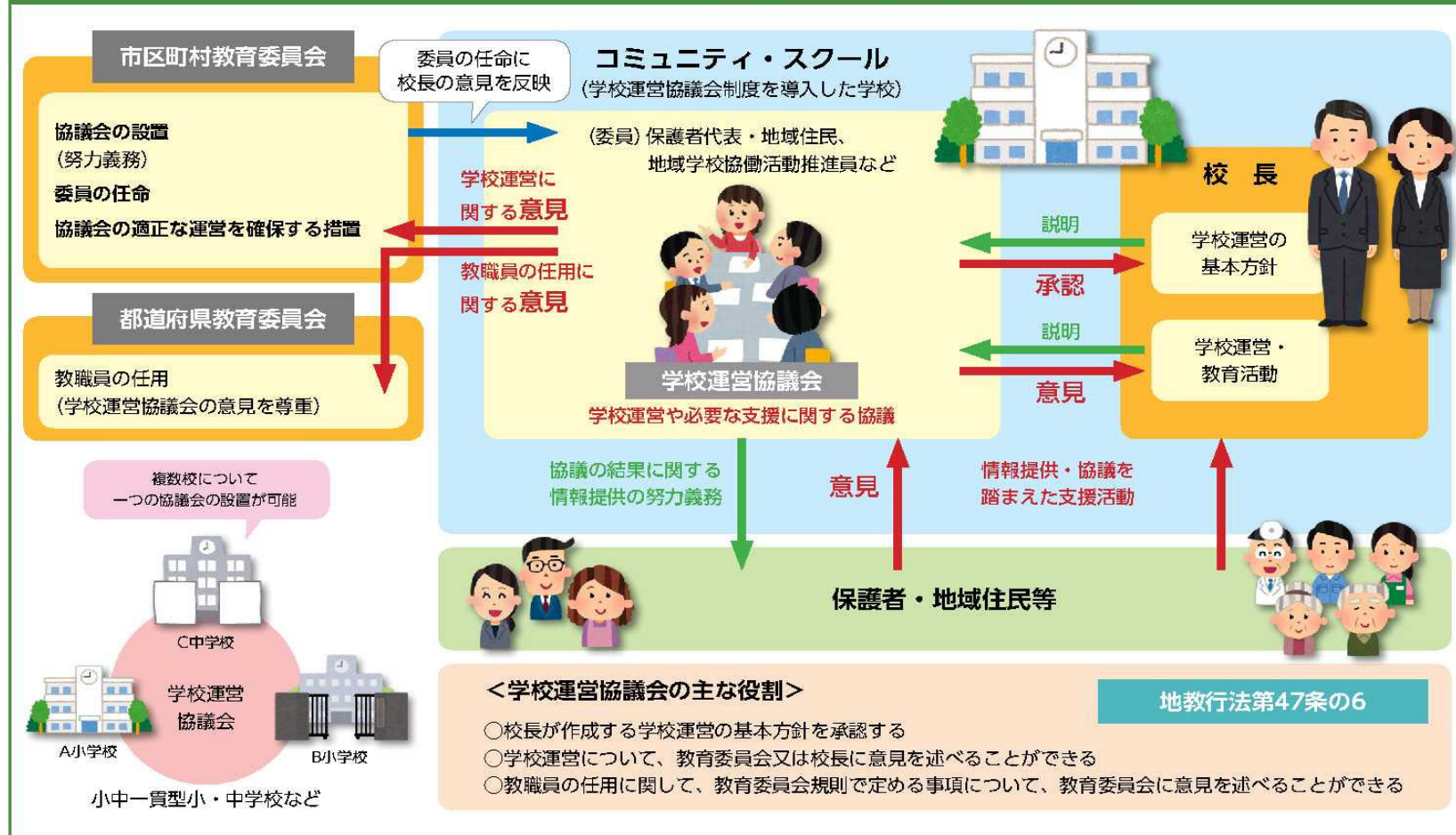
自立

自尊・共生

# コミュニティ・スクール

# “地域とともにある学校づくり”の有効なツール

## コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み

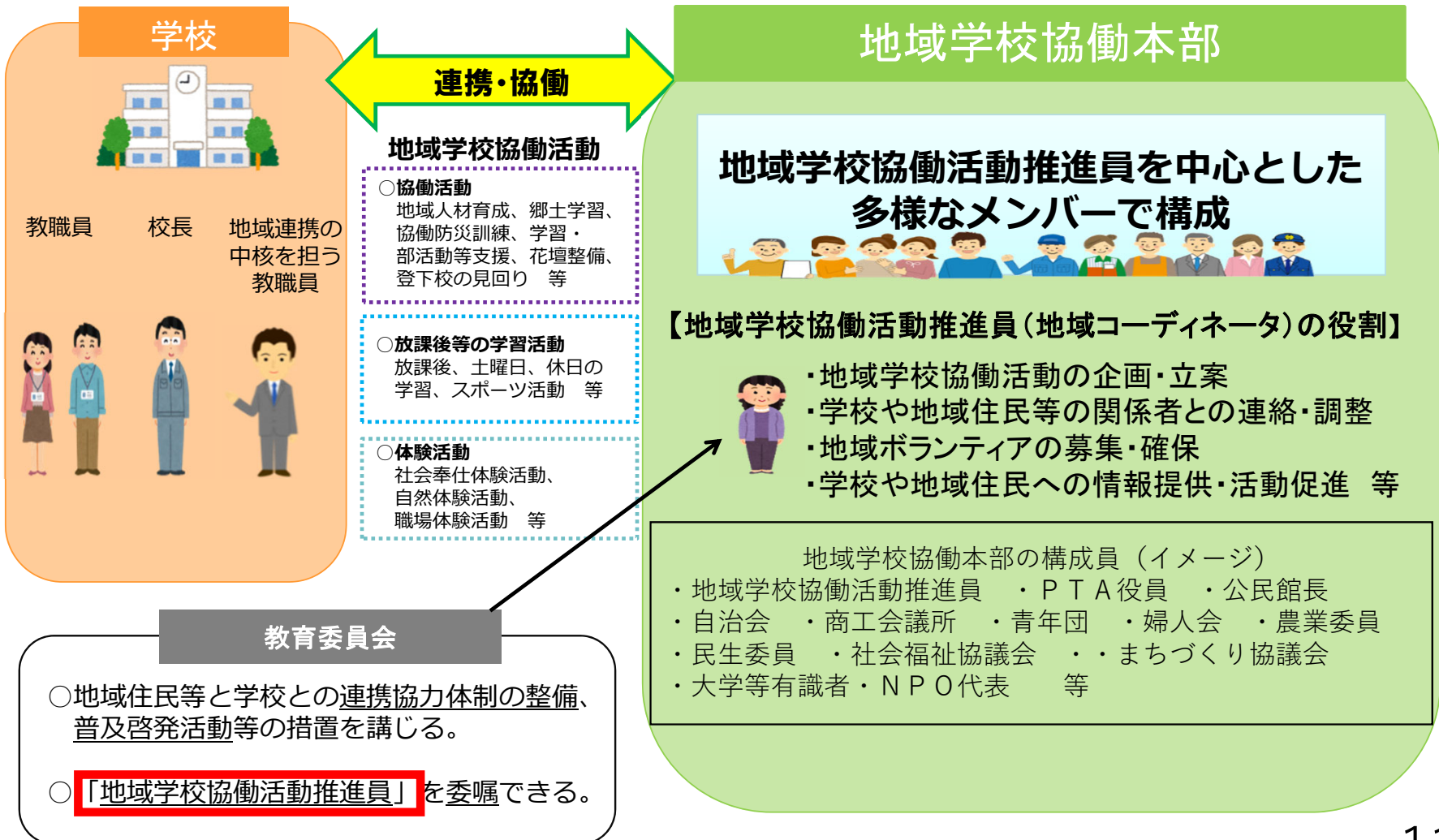


**コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けてともに協働していく仕組み。**

# 地域学校協働活動



# 地域学校協働本部の整備



# 地域協働活動推進員



# 地域協働活動推進員との打ち合わせ



# 花の苗植え



# 書写学習



# 郷土の歴史学習



## 〈こんなにある指導補助が必要な場面〉

マル付け 音読を聞いてくれる 校外指導引率

ものづくり あさがお補助(種植え・支柱立て)

初めての給食 体カテスト 七夕かざり作り 図鑑調べ

町たんけん 野菜づくり スキー靴のはき方 九九を聞いてくれる

版画づくり補助 学級での発表会のお客さん モンシロチョウ幼虫発見

理科実験の補助・あとかた付け 電車やバス利用補助

かなづち・のこぎり インタビューの相手 針と糸の使い方補助

調理実習 ミシンの使い方 はじめての習字 その他たくさん



# 2011年初任者研修資料

# 家庭科ミシンの学習





# 理科の学習



# 九九はかせになろう



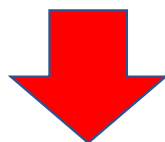
# 図書館環境整備



## その他

- ◇家庭科 保育実習支援(中学校)
- ◇学校祭 来校者の検温支援(中学校)
- ◇夏休みプール開放監視支援(小学校)

※要するに「なんでもあり」



**①学校や子どもたちの課題解決**

**②授業のねらいを達成するため**

## ●課題

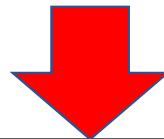
---

### 【地域の方々にとって】

- まだまだ「学校の敷居」が高い

### 【先生方にとって】

- 地域学校協働活動、社会に開かれた教育課程の周知不足
- 情報漏洩が心配
- 打ち合わせ時間の確保



**学校と地域の「Win&Winの関係」**

## 参考まで（これまでの事例）

- ◇音楽 拍手ボランティア（小・中学校）
- ◇体育 新体カテスト計測支援（小学校）
- ◇体育 新体カテスト応援ボランティア（小学校）
- ◇生徒指導 夜の繁華街パトロール（中学校）
- ◇全般 教材・教具製作（小・中学校）

**新規開拓？ これまでのボランティア・団体の見直し**

**できる人が できることを できるときに**

## これからの教育課程の理念

### <社会に開かれた教育課程>

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

**教育課程そのものを社会に開いていくことが重要**

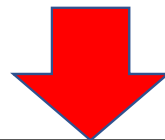
## ○今後の展望

### 【地域ボランティアルームの設置】

- ・「ちょっとお願い」の関係

### 【少子化に対応して】(児童生徒数 小:230名 中:133名)

- ・子ども園から9年間、人間関係が固定
- ・思い切った組織改編 (PTAの小中一本化)
- ・PTAとCS、地域学校協働活動との連携



**「人のシャワー」を浴びさせる**



# まちなか美術館



# 商店街応援ポスター



# 起業体験プロジェクト①



# 起業体験プロジェクト②



# 起業体験プロジェクト③

**きみまちカンパニー**

## お弁当販売!

1日100個限定 **決定**

ニッ井小  
ニッ井中  
& いとく  
プロデュース

ニッ井小学校、中学校ががんばって作った弁当です!!

**第1弾**

11/19(木)  
20(金)

馬い井

ニッ井小中学生  
いとく コラボ

ふかトロ卵と  
あさり醤油の  
相性バツグン

馬い井 400円 (税込)

**第2弾**

11/26(木)  
27(金)

ピラバーグ弁当 400円 (税込)

ピラバーグ弁当

- ① ぶささの山菜
- ② パあきない味
- ③ かれも炊き込み
- ④ ろごり最高

**第3弾**

12/3(木)  
4(金)

ニッ井 オールスターズ 500円 (税込)

ニッ井 オールスターズ

おいしい  
栄養たっぷり!

**場所** いとくニッ井ショッピングセンター イートインコーナー

**時間** 朝10時から販売 売り切れ次第終了  
買い物袋(マイバック)をご持参ください。

ニッ井小ニッ井中の子どもたちが販売します。  
どうぞお買い求めをお願いします。

わたしたちが  
種別した  
お米が使われ  
ています

ニッ井小5年生



# 起業体験プロジェクト④



# 起業体験プロジェクト⑤



学習発表会 1年生「20年後のぼく、わたし」

ふるさとに学び ふるさとに元気を発信する学校

持続可能な地域をめざして！！

